

# 平成 26 年度修了制作・まちづくり提案集

## はじめよう !! まちづくり

Machizukuri



### 修了生の 4 つの提案

- ① 童句と童話と童絵で商店街の再生を
- ② 子供、若者らが狭山を「ふるさと」と思えるまちにするには？
- ③ 「困りごとセンター」の構想
- ④ まちじゅう健幸サロン

## はじめに

- さやま市民大学の学科の一つに「まちづくり担い手養成講座」があります。市民大学の開設講座としては三年目になりました。毎年、少しずつ内容の充実を図り、平成26年度の講座が4月より開講し、10月までに合計20回の講座が実施されました。第20回目に「グループ単位の成果発表会」を行ないましたが、受講生自らが選択した、市民目線からの興味深い「まちづくりテーマ」が4つ取り上げられ、内容の濃い発表と提案が行われました。
- さやま市民大学は、学びの成果を地域に活かす、実践のための学びの場を標榜していますので、受講生の皆さんも、「自分たちで取り組めるまちづくり」を念頭に置きながら、メンバー同士でよく話し合い、調べ、関係者へのヒヤリングを重ね、成果発表の場に臨みました。限られた時間の制約の中での発表でしたが、メリハリの効いた、凝縮した発表内容になり、実現したいまちづくりの着地点が明確なものになったという利点もありました。
- これからの狭山のまちづくりを考える上で、誰かが実践しなければならない、大変、意味ある成果発表であったと感じましたので、発表者の皆さんにもうひと踏ん張りをお願いし、原稿化して、冊子化することにいたしました。修了後も何度も集まり、話し合い、推敲を重ね、編集方法まで受講生同士で検討した結果、このような冊子が誕生しました。
- 修了記念・まちづくり提案集という表題をつけていますが、修了生たちの学びの記念碑として残すだけでなく、今後のまちづくり実践に活かすための共有知的財産になることを期待し、発刊することになりました。この冊子には、まちづくり担い手養成講座の講座概要も収録されています。講演者、受講者、ファシリテーターの協力のもとで実を結んでいったワークショップ等の活動の中身の見える化が実現できるよう配慮した編集になっております。

狭山市が、市民主体のまちづくり先端都市になることを期待し、発刊の辞といたします。

平成27年2月 さやま市民大学 学長 小山周三

## 目次

1. まちづくり担い手養成学科を振り返って	3
2. 狭山の地域資源について（アンケート集計）	7
3. 提案①童句と童話と童絵で商店街の再生を（グループ1）	10
4. 提案②子供、若者らが狭山を「ふるさと」と思えるまちにするには（グループ4）	16
5. 提案③「困りごとセンター」の構想（グループ3）	22
6. 提案④「まちじゅう健幸サロン」～元気なまちさやま（グループ2）	28
7. まちづくり担い手養成学科全20回報告	33
8. 学科担当スタッフの編集後記	37

# まちづくり担い手養成学科を振り返って

学科コーディネーター：さやま市民大学学長 小山周三



さやま市民大学「まちづくり担い手養成学科」の学びのプロセスと課題別グループ編成が立ち上がるまでの経過～受講生からの意見集約に基づいての課題別グループ編成

## 1. さやまの地域資源についての認識度

これからの狭山のまちづくり、地域づくりを進めるうえで、押さえて置くべき地域資源を受講生の皆さんに沢山挙げて貰いました。

「狭山には特色ある資源がない」ということをよく耳にしますが、果たしてこれは本当でしょうか。

今回の「まちづくり担い手養成学科」を受講された皆さんからの情報提供で、数え切れないくらい沢山の地域資源があることが確認できました。これまで、気が付かなかっただけで、これからの狭山の「地域起こし」につながる「宝もの資源」が、地域の中に、あるいは普段生活している私たちの足元に沢山あることに気づきました。

このような地域の資源を本当の「宝もの資源」に変えていくのが、「まちづくりの仕事」であり、「まちづくりの活動」という共通認識を持つことが大切です。有益な情報を提供してくれた、まちづくり担い手養成学科の受講生の皆さんは、これからの狭山のまちづくりを立派に担える人材であることが確認できました。

今後、まちづくりに活かせる地域資源は、次のような幅広いジャンルに及び、これらの情報がすべて有効活用できると思います。まちづくりとは、地域資源を組み合わせ、一つ一つの物語（ストーリー）につなげていく活動過程をまちづくりと呼ぶことも出来ます。

- ① 伝承・伝統文化（神社・仏閣、歴史、史跡、伝説など）に関わる地域文化資源
- ② 自然資源（入間川、稻荷山公園、智光山公園、赤坂の森公園、景観、風景など）
- ③ 地域行事・イベント（七夕祭り、地域のお祭り、農業祭、入間航空祭など）
- ④ 教育環境（大学、国際交流、在住有識者、市民大学修了生など）
- ⑤ 健康都市（すこやか体操、ウォーキング、青空の会の活動など）
- ⑥ 協働推進を担う豊富な人材（自治会、各種NPO団体、市民大学修了者など）

このような地域資源を物語化することによって、狭山市以外からも訪問客が呼べる観光都市に狭山を育てていくことも不可能ではありません。

どのような観光資源に出会うことができ、どのように記憶に残る体験が提供できるかなどを考えるのが、狭山の観光化ということになります。観光のまちづくりは、これから真剣に考えるべき狭山の課題の一つです。

## 2. まちづくりを検討するうえでの必要な考え方の基本

平成26年度のまちづくり担い手養成学科では、合計15回の講義並びに現地視察を行い、まちづく

りを進めるうえで必要な知識の吸収と取り組み方などの学びを行いました。これらの講座を通じて、どのような考え方がまちづくりを实践する上で有益かのアンケート調査を受講生に対して実施した結果、次のような考え方、言葉が表出されました。

「このようなまちをつくりたい」という方向性を示す積極的な言葉や表現も数多く出てきました。今後、具体的にまちづくりを検討していくうえで必要になる概念として、つぎのような考え方、捉え方が役に立つのではないかと、掘り上げてみました。まちづくりの实践に必要なポイントがよく押さえられていると思います。

- ・協働のまちづくり
- ・無償ないしは有償ボランティアの存在
- ・コミュニティ・ビジネス（地域課題解決型起業）によるまちづくり展開
- ・住民主導／使い手主導のまちづくり
- ・「おたがいさま」と「支え合い」のまちづくり
- ・「人のつながりのデザイン」がまちづくり
- ・コミュニティ・カフェ（地域交流サロン）の活用
- ・コミュニティ・デザイン（地域や社会の幸せをデザインする、目標をつくる）
- ・コミュニティ・マネジメント（地域活動や市民活動にもマネジメント力が必要）
- ・地域の活動組織は「めだかの学校方式」で動く（先生と生徒の立場の入れ替わり）
- ・高齢者の生きがい就労支援&開発
- ・コミュニティ・ケアのまちづくり
- ・長寿社会のまちづくり
- ・協働と連携
- ・NPOの立ち上げ支援によるまちづくり
- ・行動が先、結果・成果はあとから考えればよい
- ・農を活かしたまちづくり
- ・世代間交流のまちづくりが必要
- ・自立互援のまちづくり（自助、共助）
- ・伝統文化×地域文化×生活文化
- ・まちづくりは「幸せの社会デザイン」
- ・狭山学の開設（地域学、地元学を通じて地元愛を育む）
- ・農業カルチャースクール（市民ファーマーの育成）

### 3. 「10年後の狭山のまち」をどのように考えるか

「10年後の狭山のまち、地域」がどのように変わっているかを、ほぼ予定した講座学習を終了した段階で、受講生に考えてもらいました。色々な見方が出ており、狭山のまちづくりの将来を考える上で参考になる沢山の意見が提示されました。

「若者が魅力を感じるまち」「入間川の観光で観光客が増えた」「道の駅の成功で都心からの人が増えた」「寝たきりの人ゼロの実現」「若者とシニアが共に働き、気軽に交流できるまち」「商店街が生き生きしたまち」「コミュニティサロンが郵便ポストより多いまち」「まちづくりボランティアと行政との協働のまち」「医療・福祉

の充実したまち」「防災に強いまち」などなど、いずれも目標になる、示唆に富む方向性が提示されています。

狭山の将来像に関する意見は、これまで受講生の皆さんが狭山のまちづくりについて学び、ワークショップで話し合い、そして啓発された結果として、「創発として生まれた貴重な学習成果」が包み込まれていると思います。

未来に向かって、「狭山のまちづくりをどのように進めたらいいのか」をこれから掘り下げて検討するにあたって、次のような「問いかけ課題」が浮き彫りにされているように思います。あくまでも、受講生一人一人の声を私なりに受け止めたものであることをこと付記しておきます。

- ① 安心して住めるまち狭山（コミュニティ・ケア）の実現のために
- ② 市外から訪れたい狭山のまち（観光都市）をどのように実現するか
- ③ 子供、若者らが狭山を「ふるさと」（ふるさとタウン）と思えるまちにするには
- ④ 「食」と「農」を活かしたまちづくりが狭山は必要
- ⑤ 協働のまちづくりと「まちづくりボランティア」の育成
- ⑥ 商店街の活性化
- ⑦ 女性がいきいきしている狭山をどうつくるか

#### 4. 受講生が重要視する「地域課題」と「社会課題」とは何か

まちづくりは、地域や社会が抱える諸課題の解決・実践活動であるという見方を学習してきました。つまり、まちづくりのフローは次のようになります。

＜地域課題の発見・抽出＞ → ＜解決方法の検討＞ → ＜まちづくり方針の決定＞ →  
＜優先順位を付けて実施＞

というプロセスでまちづくりが計画・実施されます。

したがって、地域・社会にとっての課題が何か、どこに課題があるかの発見が大事になります。課題が見えてくると、解決方法につながるアイデアが浮かんできます。

ワークショップの話し合いの中でも、最初に検討すべきは、課題と問題の整理から始めることが大切です。解決方法は、考えられる限りのアイデアを出し合い、アイデア出しの段階では、否定せずにすべてを受け入れ、どのような解決方法を採用するか段階で初めて絞り込みをすればまとまります。

今回の意見集約では、次のような地域課題が明確になりました。

- ・高齢者問題～高齢化、シニアの孤立化
- ・若者層の減少傾向
- ・自治会が抱える問題～住民の無関心、自治会どうしのつながり不足
- ・地域リーダーの人材不足～先頭に立つひとがない
- ・商店街の衰退化～シャッター通り化、買い物難民の発生
- ・交通課題～西武新宿線の発着便数が少ない
- ・防災・災害対策の遅れ
- ・空き家、空き店舗の増加
- ・高齢者と若者の交流不足

#### 5. 課題解決の方法、夢の実現のためにどのようなアイデアが出たか



今後、検討グループに分かれて狭山のまちづくりを話し合い、実現に向けての提案作成活動に入っていく際に、皆さんから提示された一つ一つのアイデアが大いに参考になると思います。

個別のアイデアを分類した結果、「空き地、空き家等の活用対策」、「地域活性化対策」、「協働事業の拡げ方」、「市民の交流促進」、「高齢化対策」、「市民大学の活用」、「就労対策」などの分野への関心が高いことが分かりました。分類に馴染まない貴重なアイデアもいくつかありました。

狭山のまちづくりを自分たちの手で進めてみたい、という活動企画を考える際に、これは面白いと思えるアイデアを整理し、受講生全員に次の6つのテーマのどれに取り組みたいかの意向を聞き、最終的に4つの取り組み課題（下線項目、①③④⑥）でグループ編成することに決まりました。

- ① 「童話のまち」で商店街再生（中央商店街は「童句」のまち）
- ② まちづくり未来館の設立（アイデアを募集し未来の構想を立てる）
- ③ まちじゅう青空サロンの展開
- ④ 困りごと何でも相談センター開設
- ⑤ 女性就労支援NPOの立ち上げ
- ⑥ 子供、若者らが狭山を「ふるさと」と思えるまちにするには？

以上、提出していただいた情報を整理、検討した結果、4つのグループに編成して、具体的な「まちづくり提案活動」を進めることになりました。提案活動の成果を以下のページでご紹介いたします。



第1グループのメンバー



第2グループのメンバー



第3グループのメンバー



第4グループのメンバー

## 1. 狭山の地域資源について

- \* 智光山公園などのフラワーイベント
- \* 入間川の河原で開催できるイベント
- \* 航空ショー・桜まつり・堀兼ひまわりまつり
- \* ブルーベリー狩り
- \* 商工祭
- \* 農業祭
- \* ぶどうまつり
- \* 大茶会
- \* 稲荷山公園の桜まつり
- \* 入間川河川敷の活用
- \* 入間川（ネジ花・彼岸花）
- \* 狭山堀（バス・鯉）
- \* 入間川の右岸左岸
- \* 入間川（田島堰・笹井の堰）
- \* 入間川、美しい自然（景色）
- \* 鯉のぼり渡し
- \* ともしびの川
- \* スポーツ広場
- \* バーベキュー
- \* 入間川・蛍
- \* 首都東京のベットタウン
- \* ベットタウンに戻ってきた
- \* ゴルフ場
- \* 自衛隊の基地
- \* 入間基地（民間飛行場にして）
- \* 文化的感度の高い人々
- \* アイデアを持っている若い人々
- \* ひとつづくり（元気プラザ）
- \* 西武文理大学（小・中・高・大学）
- \* 武蔵野学院大学
- \* 狭山市民大学
- \* 入間川たなばたまつり
- \* 奥富小付近のかかしまつり
- \* 既存の行事を拡大する
- \* 梅宮神社の甘酒まつり
- \* 大学の協力
- \* 大学との連携
- \* 茶道・華道・蒸茶道等伝統文化の開催と体験
- \* 市内工業団地の企業訪問
- \* 漫画
- \* 河川敷
- \* こかわ（入間用水）
- \* 水野新田
- \* 古いまち並み

- \* 沢地区の湧水
- \* 入間川招大橋付近の桜
- \* 清水大橋
- \* サイクリングロード
- \* 狭山オリジナルすこやか体操
- \* ウォークラリー
- \* 水富あいさつの歌（あいさつ運動）
- \* 入間川河川敷の桜並木（整備中）
- \* 智光山公園（バラ園・ハンカチの木）
- \* 赤坂の森公園
- \* 稲荷山公園
- \* 智光山公園（バラ園・菖蒲園）
- \* こども動物自然公園
- \* おおたかのもり
- \* 智光山の活用（植木・バードウオッチング等の講座）
- \* 市立博物館の100万年前のアケボノゾウ
- \* 柏原河川敷公園
- \* 上奥富運動公園・上奥富せせらぎの路
- \* 図書館・市民会館・交流センター体育館・プール
- \* 廃校舎のグラウンド
- \* 都市景観の優秀賞を取ったスカイテラス
- \* サンパーク奥富・サピオ稲荷山
- \* 元気プラザ・市民大学
- \* プラネタリウム
- \* 茶の花号の利用の便利性
- \* 圏央道
- \* 東京狭山線
- \* 海外交流（韓国統営市・米国ワシントン・中国杭州）
- \* あじさいまつり（国際交流の集い）
- \* 地区体育祭
- \* 不老川
- \* 自然災害の少ない地域環境
- \* 緑の多い土地
- \* カタクリの花・ねじり草の群生及び芝桜
- \* 城山柴と桜
- \* 入間川の橋
- \* 茶摘み風景
- \* 武蔵野の原風景
- \* 堀兼と水野の新田
- \* 里山
- \* サヤマルシェ

- \* 狭山ケーブルテレビ
- \* 駅前広場
- \* 歴史ストーリー（狂言入間川）
- \* 映画のロケ地・狭山市をとりあげた映画
- \* 工業団地
- \* HONDA（世界のホンダ・硬式社会人野球チーム）
- \* 狭山茶・ブルーベリーの産地・観光農園
- \* シャッターを閉じた店並
- \* 物産観光
- \* 狭山茶・狭山紅茶
- \* 入間川商店街
- \* 観光ブドウ園
- \* B級グルメ・入間ごぼうの復活
- \* 地場産野菜
- \* 野菜（さといも・大根）
- \* 休耕地
- \* 都市近郊農地
- \* お茶畑・農地
- \* 子供農園・売店
- \* 農地
- \* 道の駅
- \* 東京オリンピック（ゴルフ競技、外国人選手のホームステイ）
- \* 市内に住んだ作家
- \* 笠松直美・島田公江・高橋光昭（元博物館館長）・小山学長
- \* 古典に示された文学の地
- \* 歯痛止めの神様
- \* 人形浄瑠璃
- \* 狂言入間川（源義孝・入間川御所）
- \* 伝統的遊びの伝承 or まゆ玉作り等
- \* 昔の暮らしの伝承
- \* うどん（狭山は昔から饅飩文化だといわれているので）
- \* 笹井豊年足踊り
- \* 入曾の獅子祭り
- \* 地域のお祭り
- \* 浅間神社の火祭り
- \* 火祭り
- \* 入間川の筏流し
- \* 狭山市内の鎌倉街道
- \* 入曾と堀兼の井、八軒家の井
- \* 七曲井・堀兼の井
- \* 下水野地蔵尊
- \* 化け地蔵
- \* 古代遺跡（堀兼の井・加佐志の遺跡）

- \*今宿遺跡・影隠れ地蔵
- \*大正天皇野野立の碑
- \*黒くなった地蔵様
- \*芝坂のイボ神さま・西方の石仏
- \*群・青柳のせんちゃん地蔵
- \*加佐志の耳だれ地蔵・珍しい文字を刻んだ馬頭観音・夢地蔵
- \*宮地遺跡
- \*昔からの史跡
- \*中世の鍛冶集団
- \*青石塔婆
- \*入間川の砂鉄
- \*清水崇徳の顕彰
- \*富士塚
- \*広瀬神社（大櫓・あおぼづく）
- \*滝不動
- \*白髭神社
- \*常楽寺観音堂
- \*堀兼神社隨身門（二神像）
- \*入間野神社
- \*金剛院
- \*寺社の文化財
- \*七福神の寺社・七観音の堂寺
- \*清水八幡宮
- \*木曾義仲の子
- \*狭山市の誕生
- \*製茶業と織物業
- \*基地の街誕生
- \*工業住宅都市化
- \*人が暮らせるようになったのは入曾：鎌倉時代、堀兼：江戸時代

## 2. 「10年後の狭山のまち」をどう考えるか

- \*人口の増加
  - ① 活大作戦を展開
  - ② 若いカップルに住宅（空き家提供）
  - ③ 子育て支援
- \*一人一人の個性を引き出す教育で
- \*目標を持ちいきいき暮らす町に
- \*若い人の住みやすい町工業団地
- \*スポーツ、娯楽施設の増加で若者、定着
- \*圏央道からの人の流れ増えた
- \*介護予防の徹底（青空サロン）で健康寿命が延びた
- \*認知症早めの気づきで認知症で困る事が少なくなった

- \*隣人とのコミュニケーションが出来（全市）仲良く暮らすまち
- \*入間川の観光で観光客が増えた
- \*道の駅の成功で都心からの人が増えた
- \*赤坂の森農業体験で農業に関心のある人増え
- \*文理大、武蔵野大学生が増え活気溢れる（魅力ある狭山市のお蔭で）若者のまちに
- \*団地は5階建てが多いので階段と廊下を利用して、足腰を強くする等の運動をして体力づくりをしながら、孤立死を防ぐために窓越しに声を掛け合う
- \*若者が働けて、楽しい家庭が持てるような町
- \*子供を100%保育可能な社会
- \*農業の地、工業の地、商業の地、いこいの場、それぞれの場所を長い目で考え計画を立てる
- \*活力のある街
- \*若者が魅力を感じる街
- \*情報発信源となれる街
- \*芸術や文化を発信し、地域を活性化
- \*杜の都のようなケヤキ並木の景観
- \*夏は涼し気な木陰、冬はイルミネーションで光のページェントをメインストリートに…
- \*若者が増え、老人も気持ちを若がえらせ、元気な市民であふれた街
- \*医療制度を充実させ、認知症患者を減少させ、家族の介護が不要になる街
- \*若者、老人、共に働き、気軽に交流できる場がある街
- \*寝たきりの人0
- \*企業誘致により若者が市内で働ける職場
- \*1人暮らしの高齢者の為の介護付き住宅
- \*市の財政を豊かにする為にも市内に大きな商業施設（デパート、レストランetc）作る
- \*高齢者乗り物割引パスポート
- \*商店街が生き生きしている
- \*企業が進出してくる魅力的さやま
- \*その企業を大切にする市民力を育むための官民一体化策を考える

- \*既存企業を大切にするさやまホンダ軟式野球大会の応援を市民と企業と行政で行う
- \*既存の行事を発展させる七夕祭り、こいのぼり渡しを発展させる
- \*川祭りと花火大会～大規模に！！
- \*智光山まつり～大規模に！！狭山ボランティアまちづくりと行政の協働
- \*地産地消の出店多数 狭山茶、紅茶の接待
- \*スポーツとのコラボ。子育てお母さんの応援団
- \*外国人も含めて、各世代が安心して暮らせる町
- \*医療の充実、子育て支援、学習支援、健康づくり、介護支援、生活支援
- \*雇用が安定して供給される町（近隣市とも連携）
- \*起業支援。新本事業の創出・研究
- \*各世代が生きがいを持って暮らせる町
- \*少年スポーツ推進
- \*少年サマーキャンプ等、地域ぐるみの子育て支援
- \*中学生、高校生支援（学習支援、学習教室の支援）
- \*外国人子弟との交流、登山等〇〇体験）
- \*オヤジクラブの推進
- \*生活支援、介護支援登録制度
- \*子供を育てたいまち
- \*女性が働きやすいまち
- \*高齢者も安心して暮らせるまち
- \*活気のある街づくり
- \*声掛け、高齢者の見守り（行きすぎない程度の）
- \*すこやか体操で健康のまち
- \*お茶を使った菓子づくりコンクール
- \*「お茶」にまつわる心に残る手紙コンテスト
- \*「命」の言葉コンテスト
- \*駅前広場で音楽祭
- \*高齢者が安心できる町
- \*土の香りが残る町
- \*自然が残る町



- \* 孤独死などない町
- \* 近世、中世の歴史を大事にすること
- \* 観光、農業によるまちづくり
- \* 智光山公園の観光地化
- \* 雑木林の活用する
- \* 若者が希望持てるまち
- \* 老人が生き涯を持てるまち
- \* 商店街が活発になる
- \* 子育てにやさしい狭山
- \* 交通の便のよい狭山
- \* コミュニティスペースの多様化連携
- \* 不老川散策ロード
- \* 活力ある狭山
- \* 高齢者にやさしい狭山
- \* 狭山茶以外の狭山
- \* 生活支援組織が連携した狭山
- \* 西の二子玉川
- \* 東京狭山線を中心とした観光都市
- \* 道の駅から智光山公園までに、農場解放、農業体験
- \* R16号が今、全国から注目されている
- \* そこにタテのクサビを打つのが東京狭山線
- \* これからの狭山は、この道路をいかに生かすかが活性化のカギとなる
- \* 放課後教室の充実（少1の壁）
- \* 都心からのアクセスの便利性
- \* 文化・芸術を大切にする
- \* バリアフリーのまち
- \* 駅周辺の便利性
- \* 見守りネットワークが充実
- \* 医療・福祉の充実
- \* 子育てしやすいまち
- \* 高齢者の助けになるロボット購入割引
- \* 東上線を西武線につなげる
- \* 見守りがいなくても子供達が安心して家に帰れる
- \* 介護施設の増加
- \* 智光山に民宿を
- \* 祇園商店街をアーケードに
- \* サッカー場、グランドゴルフ場
- \* 元気プラザ校庭利用、元気プラザの教室利用
- \* 子育てに嬉しいまち
- \* 観光農地でいやしの空間
- \* 高齢者の働けるまち
- \* 農家の人手不足に対応できる

- 就労支援のまち
- \* 狭山茶と鎌倉道等の歴史の融合のまちづくり
- \* 女性・子供の住みたいまち  
職・住隣接 保育所完備（駅前保育・企業内保育）
- \* 女性支援NPOの立ち上げ  
ファッシュブルなまち
- \* 訪れたいまちNO. 1 観光のまち
- \* 蛍飛び交うまち。古代生活の体験。入間川のこいのぼり。ファッションのまち
- \* 見守りのまち
- \* コミュニティの充実。近隣の助け合い
- \* お茶かほるまち
- \* お茶の接待。お茶グルメ充実
- \* シニアの生き生きしたまち  
市民大学修了生の活躍
- \* スポーツのまち
- \* 智光山テニスコート。女子サッカー（ASエルファント）
- \* コミュニティサロンがポストの数ほどあれば良い（100円位でコーヒーが飲めるような）
- \* 四季折々に子供から大人まで訪ねて来なくなる街
- \* 大型動物園のあるまち
- \* 食と農を活かしたレストラン街
- \* 1人暮らしの人でも安心して暮らせるまち
- \* 緑の多い自然をのこしたまち
- \* 入間川で安心した川遊びが出来るような施設を
- \* 文化都市狭山に！
- \* 子供の笑い声が聞こえるまち
- \* 若い人が住みやすい魅力ある狭山
- \* 格安住宅提案→新狭山ハイツ空部屋（住居）200万円
- \* 婚活→狭山市の未婚男女の出会いの場を提供を市外へも対象拡大し結婚へとつなげたい  
成立→子育て世帯の誕生へと…
- \* 子育てしやすい狭山づくり。教育に温かな、熱心な環境づくり
- \* 向う3軒両隣の互助の心が育つ環境のまち
- \* 狭山をつくるお互い様が行き交うまち…
- \* 自然豊かな緑と花のまちさやま

- \* 近代的なまちと昔ながらのまちの両方がまざったまち
- \* 防災に強いまち
- \* 協働のまち
- \* Tea Party
- \* 子供達が豊かなまち
- \* 女性がいきいきしているまち
- \* 子供達から大人まで農業がさかんなまち
- \* 子供広場の開設。高齢者の交流広場

2014年度 まちづくり担い手養成学科  
童話と童句と童絵で商店街の再生を

《第1グループ》佐藤咲子 村井美砂子 花形直平 権田恒夫

## 目次

- 1 はじめに
- 2 活動の経過
- 3 商店街を歩く
- 4 童句から学ぶ
- 5 膨大な童話から
- 6 ユニークな商店街
- 7 商店街の現状を聞く
- 8 童句で街おこしを
- 9 紙芝居で活性化を
- 10 商店会と懇談
- 11 童絵で街の再生を
- 12 夢の第一歩を
- 13 これから9年後
- 14 記録の作成を
- 15 おわりに



狭山中央通り商店街



個展が開ける喫茶店

## 1 はじめに

私たちは、「さやま市民大学まちづくり担い手養成学科」の第1期生として入学。「まちづくり」から「市民活動に役立つICTとは」までを学習しました。秩父市みやのかわ商店街を復活した島田憲一前理事長の講演に感動、商店街の再生に関心を持った4人でグループを結成しました。

狭山市では少子化と高齢化が進み、人口が減少しています。今から16年前の平成10年、国会で「中心市街地活性化法」を法制化、成長戦略の目玉として「元気で豊かな地方を創り、地方を活性化しよう」と政策を発表しました。そこで、ファシリテータ道下英俊さんの指導のもと、狭山中央通り商店街を元気ある街に復活しようと考え、「童話と童句と童絵で商店街の再生を」をテーマに活動を始めました。ちなみに、「まち・ひと・しごと創生法」と「地方再生の一部を改正する法律」の二法が可決成立し、施行されました。地方の再生が、果たしてできるでしょうか。

それでは、狭山中央通り商店街を活性化する道筋を提案したいと思います。

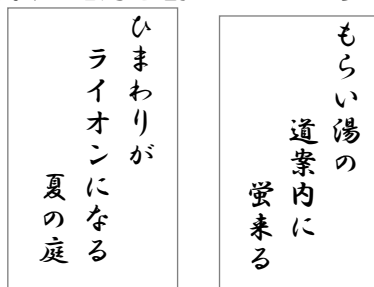
※街（まち） 街の中の家屋の密集した一区画を指す。商店街。英語で street と言う。

※中心市街地活性化法 衰退しつつある都市の中心市街地を活性化し、賑わいを取り戻す法律。

※地方創生関連二法 少子高齢化に伴う人口減少に歯止めを掛け地方を創生しようとする法律。

## 2 活動の経過

- 8月8日（金）街並みの現地調査  
狭山中央通り商店街の街並みを調査する。
- 8月22日（金）資料の収集  
中央図書館で童話をジャンル別に調べる。
- 8月29日（金）資料の分析  
狭山元気プラザで資料の活用を話し合う。



童句の作品例

- ・ 8月31日(日)情報の収集  
東急入間川自治会館で商店街の現状を聞く。
- ・ 9月11日(木)情報の収集  
中央公民館で童句の街おこしについて伺う。
- ・ 9月26日(金)情報の収集  
狭山元気プラザで童話・紙芝居を聞く。
- ・ 10月10日(金)グループ別学習発表会
- ・ 10月25日(土)情報の収集  
自治会館で入間川商店会役員と懇談する。
- ・ 11月7日(金)情報の収集  
池原昭治さん宅で童絵の活用法を伺う。
- ・ 11月29日(土)市民大学学園祭発表会



自治会役員との懇談(自治会館前)

### 3 商店街を歩く

8月8日(金)、中央通り商店街を視察し、街づくりに協力してほしい店を撮影しました。東西700m程の幹線道路沿いに、東急入間川自治会館とスーパーマルエツ・スクランブル交差点を中心に100軒余の店が軒を連ねます。美味しさで評判のラーメン店やケーキ屋、絶品な里芋コロケの肉屋、さやま元気大学修了生が立ち上げたNPO法人コモンズが開いた「狭山安心お助け隊」「子どもおもちゃ病院」など地元密着の店舗を、地域住民は便利に利用しています。東急入間川商店会は自治会と協力し、毎週土曜日の道路清掃・花壇への花植え・街角絵画展(8月3日~6日)を実施しています。そして、毎年8月最後の土曜日、マルエツ駐車場で「さやま夜祭り」を行い、商店街にもぎわいます。商店街では駐車場も完備し、買い物客の便利さを確保しています。

個展が開ける喫茶店に入ると、マスターから「良い企画があれば協力しますよ」とありがたい言葉をいただきました。商店街再生に関心を持つ店主に出会え、とても感激です。

※東急入間川自治会 一部入間川を含み、狭山市中央1丁目から4丁目までの範囲で23班、740世帯が住む(平成27年現在)。市内でも最も活発に活動する自治会として知られる。

※東急入間川商店会 新しい店で積極的に参加する店は少ない。現在74店が加盟する。

※里芋コロケ スィーツ感で人気のB級グルメ、農工商連携で開発、関東農政局長賞を受賞。

※NPO法人コモンズ 平成4年、住みやすい街づくりを願って設立。狭山安心お助け隊は地域の安心と安全を支え暮らしを手助けし、子どもおもちゃ病院は壊れたおもちゃをボランティアで修理している。コモンズは、重宝な法人として地域住民に役立っている。

### 4 童句から学ぶ

狭山中央通りを散策すると、街路灯に「もらい湯の/道案内に/蛍くる」などの全国から送られた童句百選が飾られ、ほのぼのとした雰囲気醸し出しています。自治会館近くの中央地区に『かわいそうなぞう』の童話作家・土家由岐雄(1904~99)が住んでいた関係で、東急入間川商店会が中心となり街路灯に童句を掲げました。童句百選を読んでいる買い物客も見られます。

ちなみに、童句とは、「自分が純真な子どもの心に還って詠む俳句」で、土家が創始しました。読売新聞日曜版で、彼は童句欄の選者を務めています。まさに、狭山市は「童句発祥の地」です。平成11年に亡くなりましたが、智光山公園子ども動物園前に「あらそって/たこおろす空/雪となる」など5句を刻んだ童句碑がたたずみ、入退園者が関心を持って見えています。

毎年7月3日直近の日曜日、狭山台公民館で狭山童句研究会が中心になり、童句翁忌を行っています。明治37年(1904)6月10日生まれ(日露戦争勃発の年)なので、今年が生誕111年です。「俳句の松山 童句の狭山」「西の松山 東の狭山」と世間に広く知られるようになれば、市民憲章「教養を深め、文化の高いまちをつくりましょう」が具現化されたこととなります。狭山市発祥の童句が、狭山中央通り商店街を再生する力ギになるかもしれません。



- ※『かわいそうなぞう』 昭和 26 年発行、220 万部のロングセラー。  
小学 2 年生の教科書に採用され、現在も読み継がれている。
- ※狭山童句研究会 昭和 61 年発足、渡川誠さんを中心に童句の普及と  
発展に努め、童句集の刊行など地域文化の向上に貢献する。
- ※松山市 松山城や道後温泉、奥道後温泉で知られる。俳句を革新し、  
『ホトトギス』を創刊した正岡子規（1867～1902）と、それを継  
承した高浜虚子（1874～1959）の誕生地として知られる。



かわいそうなぞう

## 5 膨大な童話から

- 8 月 22 日（金）、街おこし関係の童話を知ろうと中央図書館に出掛け、調査しました。そして、店のイメージにあった街おこしに関する図書を捜し出し、リストアップ、ジャンル別に分類しました。膨大な童話の中から注目した人物は、新狭山ハイツ在住の童話・紙芝居作家の中村ルミ子さんと水野在住の童絵作家・池原昭治さんです。そこで、二人の作品について調べることにしました。
- ※中村ルミ子 いわさき創作童話『ママがエリコでエリコがママで』で第 8 回福島正実記念 SF 童話賞を受賞、埼玉県夏休み推薦図書に選定される。他に『とおかんや』『七夕食堂』など。新狭山ハイツで「あおやぎ文庫」を運営し、子どもから大人まで読書の楽しさを知らせる。
- ※池原昭治 香川県高松市生まれ。日本各地の民話を訪ね歩き、「童絵」を創始し、独得な画風を確立する。雑木林の美を見事に描き出している。テレビ朝日放映の「まんが日本昔ばなし」の原作・作画・演出を担当し、狭山市内の昔話（大六天さま・鬼子母神さま）を全国に紹介する。

## 6 ユニークな商店街

- 小山学長と「街活さやま」スタッフの講義を通して、長野県小布施町商店街と東京都板橋区ハッピーロード大山商店街の街おこしを学習しました。それから、秩父市みやのかわ商店街振興会の島田憲一前理事長をお招きし、商店街活性化の成功事例を講演してもらいました。
- 8 月 29 日（金）、狭山元気プラザで資料の分析と活用法について話し合い、ユニークな商店街を調べました。それでは、地域ゆかりの童話を活用し、街づくりに成功した事例を紹介します。
  - ・長野県岡谷市童画館通り商店街は、武井武雄が描く童画やデザインの街路灯を掲げる。
  - ・愛知県安城市御幸通り商店街は、童話作家新美南吉の作品を壁画に飾る。
  - ・神奈川県川崎市中原区モトスミ・ブレーメン通り商店街は、グリム童話『ブレーメンの音楽隊』のシャッターアートを描く。
  - ・さいたま市武蔵浦和駅前商店街は童話をモチーフにオブジェを飾り、「絵本と童話の街づくり」をしている。駅前に児童館がある。
- ※小布施町商店街 「栗と花と北斎の街 小布施」として知られ、昔ながらの景観を残す商店街。平成 10 年 2 月、長野県でオリンピック開催の時、小布施町を訪れたアメリカ人セーラ・マリ・カミングさんは、何も変哲もない小布施町を年間 120 万人の観光客が訪れる街に発展させる。
- ※ハッピーロード大山商店街 空き店舗を活用したアンテナショップ「とれたて村」で全国の特産品を販売。道路拡張計画に反対し、貴重なアーケードを残す。
- ※みやのかわ商店会 毎年 12 月 3 日に行われる秩父の夜祭りをヒントにナイトバザール（夕市）を開き、若手が中心になって街おこしに取り組む。平成 17 年 2 月、日本経済新聞で「訪ねてみたい商店街ベスト 5」にランクされると、全国から多くの人々が視察に来る。
- ※武井武雄（1894～1983） 長野県生まれ。童話作家で版画家として知られる。「童画」という名称の創始者。初期童画界の代表者の一人として活躍した。
- ※新美南吉（1913～43） 愛知県生まれ。素朴な善意や人生の哀歓を描く作品が多い。わずか 18 歳で発表した『ごんぎつね』は、全国の小学 4 年生が学ぶ名作である。『新美南吉全集』には「牛をつないだ樁の木」「おぢいさんのランプ」「手袋を買いに」など、多くの読者が読みふける作品が載せられている。

## 7 商店街の現状を聞く

8月31日（日）東急入間川自治会館で月一回開催するcafé 東急で商店街の現状について取材すると、課題が浮かび上がりました。

- ・地元店が減少している。
- ・商店の後継者がいない。
- ・店主が高齢化している。
- ・空き店舗に若い店主が入らない。
- ・現状に満足し、活性化する気運が少ない。
- ・活性化を手掛ける人が少ない。
- ・商店会に加盟しようとならない。
- ・個性ある店が減っている。

平成10年頃迄、年2回大売り出しを行うなど活況を呈していましたが、徐々に商店が減り始め空き店舗が目立つようになりました。個人商店に替わって、商店会に加入しない大手企業の支店や営業所が増え始めました。生活スタイルの変化と共に大型スーパーに客が奪われてしまったことが原因と考えられます。8月23日（土）、地域に根付いた「さやま夜祭り」に多くの人が集まり、商店街も賑わいました。商店会と自治会は月1回会合を持ち、商店街の将来や高齢化する地域住民の買い物難民化などについて話し合っています。これからも、活発に話し合いを続けるでしょう。



8月開催のさやま夜祭り

## 8 童句で街おこしを

9月11日（木）、中央公民館で童句振興協会会長の広沢謙一さんから示唆に富んだ話を伺いました。「童句は、大人が失いかけた少年少女の純真な心を取り戻してくれます。市内のネットワークを結ぶ必要があります。予算を掛けなくても、童句により街づくりができます。商店街の活性化に理解ある人たちが集まり、知恵と力を出し合うことが大切です。童句碑を結び付ける散策コースを考えたら、どうですか」などのアドバイスをいただきました。童句集『少年期』には、じっくり鑑賞したい作品が数多く載せられていますが、興味ある童句を紹介します。

『かわいそうなぞう』を／読んで泣く／終戦忌 広沢一岐

※広沢謙一 新しい児童文学である童句の発展と普及に尽力する。社会教育など各方面で積極的に活動している。平成11年『少年期』で日本文芸アカデミーゴールド賞を受賞する。

## 9 紙芝居で活性化を

9月26日（金）元気プラザで中村ルミ子さんに会いました。彼女は童話と紙芝居で子ども達に故郷を大切に育てる心を育てたいと考え、幼児から大人までが楽しめる童話と紙芝居の作品を発表しています。「紙芝居はメッセージ性が強く面白いです。街づくりの一環として紙芝居は最適です。自治会館や空き店舗を活用し、紙芝居を演じたら良いですよ」と、紙芝居の魅力を教えてくれました。



中村ルミ子さんと話し合い

## 10 商店会と懇談

10月25日（土）、東急入間川自治会館で商店会と自治会の役員で懇親会を行い、商店街について熱心に話し合いました。私たちもオブザーバーとして参加して、用意したレポートを土台に商店街の将来像について発表しました。活発な話し合いができ、有意義な時間を過ごせました。



## 11 童絵で街の再生を

11月7日（金）、『狭山の絵本』『狭山市郷土かるた』や雑木林をモチーフにした作品を発表し、『広報狭山』連載の「残しておきたい狭山の風景」でお馴染みの童絵作家池原昭治さん宅を訪問、童絵の活用法を伺いました。池原さんは童絵を通して雑木林の美をほのぼのとしたタッチで描き、詩人で小説家の国木田独歩は『武蔵野』で秋から冬までの人工林の美しさを描写しています。  
※国木田独歩（1871～1908） 新体詩から小説に転じ、自然主義文学の先駆となる。

## 12 夢の第一歩を

商店街はどんな歴史を持ち、今までどんな経緯をたどって来たかが重要で、その基盤の上に新たな街づくりをしたら、無理のないものと言えます。童話や童句、童絵に造詣深い人や街づくりに関心がある人々の結集が必要です。東急入間川商店会が主役になり、東急入間川自治会・狭山台公民館（狭山童句研究会）・狭山台児童館・地域住民が力を合わせれば、中央通り商店街再生の課題が解決できるかもしれません。

商店会と自治会が協働して、商店街活性化の夢を描き、地道な実績を積み重ねれば、手作りの街おこしが出来るでしょう。それでは、狭山中央通り商店街を再生する具体策について提言します。

- ・顔出しパネルを作る。
- ・童句の垂れ幕を吊るす。
- ・葉書やグッズを創作する。
- ・キャラクターを開発する。
- ・空き店舗をゼロ近くにする。
- ・小さな図書館を設置する。
- ・毎月1回はイベントを開く。
- ・童謡のミニコンサートを開く。
- ・童話や紙芝居を読み聞かせする。
- ・商店街の個性的なマップを作る。
- ・童句の優秀作品を掲げる。
- ・童話と童句を展示する。
- ・童話カフェを開設する。
- ・シャッターアートを描く。
- ・童話のからくり時計を掲げる。
- ・高齢者にベンチを設置する。
- ・童句と童話の石碑を立てる。
- ・電線を地中化する。
- ・トイレを建設する。

### シャッターアート

童句の  
垂れ幕

顔出し  
パネル

紙しばい

### 小さな図書館



街路灯

## 13 これから9年後

商店会と自治会、地域住民が協働しアイデアを出し合ったら、多くの買い物客が訪れる商店街になるかもしれません。そして9年後、2024年7月4日、土家由岐雄生誕120周年を記念し全国童句祭りを挙行したら各地から童句愛好家が訪れるでしょう。「狭山市は、童句発祥の地である」と宣言したら、「ここに童句の街 狭山あり」と広く知られるようになる筈です。

狭山市駅東口から中央通り商店街—狭山台中央公園—堀兼・赤坂の森公園までの散歩コースを考えました。平地林や畑地を楽しみながら散策すれば、見慣れた風景も心身を温めてくれます。武蔵野の自然と童話・童句・童絵を生かした街づくりにより往来する人の流れができ、行き帰りに商店街の店舗に立ち寄り買い物したり、ティータイムを取ったりして集客力が高まるでしょう。

※武蔵野 埼玉県と東京都にまたがる。古くは牧野や採草地、江戸時代から農業地に開発される。

## 14 記録の作成を

「童話と童句と童絵で商店街の再生を」をレポートにまとめたので、後に続くまちづくり担い手養成学科の後輩に託したいと思います。将来、街づくりが実現できることを目指したいです。

それでは、仲良く活動したメンバーの感想を書き添えます。

- ・夢は見るものでなく、創るもの。童心を忘れがちな大人が童話や童句、童絵の世界に還れる商店街に再生したいと思います。座敷童（ざしきわらし）が東急入間川商店街に現れたら、商店街が活性化するかもしれません。  
佐藤 咲子
- ・お総菜を購入するなど、狭山中央通り商店街を身近で便利に利用しています。童話と童句と童絵を通して商店街が活気ある街になることを期待します。  
権田 恒夫
- ・高齢の母親と狭山台からスーパーまで買い物に行っています。大型店には物がいっぱいあっても対話できる雰囲気はありません。お互いに雑談しながら、買い物ができる地元の商店を大切にしたいと思います  
村井美砂子
- ・高齢で足手まといにならないか不安でしたが、皆さんに引っ張ってもらい感謝しています。子どものような皆さんが、商店街の活性化に奇抜なアイデアを提案されるのに驚きました。私たちの提案がいつか実を結ぶかもしれません  
花形 直平

※座敷童 岩手県の遠野地方では「ワラシッコ」と言う。座敷や蔵に住む福の神で、見た者には幸運が訪れ、座敷童がいる家は栄え、去った家は衰退すると言う『遠野物語』に載る神さま。

※活性化 戦国の武将織田信長（1534～82）は、楽市・楽座を通し城下町の活性化を図った。

## 15 おわりに

狭山中央通り商店街は買い物の場だけでなく、いざと言う時の災害や防犯、高齢者の介護や子育ての支援など重要な役割を果たしています。地域性を考え、新鮮で魅力的な街づくりを考えました。ちょっとした工夫をすれば、将来への展望が開けます。商店会が中心になり、地域一丸となって活性化に尽力し、活気が溢れる商店街を創り上げて欲しいと思います。地域住民を巻き込んで、埼玉県一番いや全国一の元気な商店街になることを目指し頑張っていたいただきたいと切に思います。地域住民も、身近で便利な中央通り商店街で買い物してほしいです。

狭山中央通り商店街が人情に溢れる、元気で魅力的な商店街に発展することを願います。これを機会に、私たちも地域経済の活性化にいささか貢献したいと思います。「夢は想えば、必ず叶う」と人は言います。皆が夢の実現に向かい、商店街の活性化に尽力してほしいと思います。9年後を見据えた構想が、狭山中央通り商店街の将来につながれば、ありがたいです。結びに、多くの方々のご指導、ご協力により本文をまとめることができました。深く感謝します。

皆さん、街づくりの夢を一緒に語り合いませんか。  
人と人が触れ合える街づくりに挑戦してみましょう。



グループの絆を強めた仲間たち

まちづくり担い手養成学科に入学し、素晴らしい仲間に出会えました

左端から

- ・佐藤 咲子
- ・村井美砂子
- ・花形 直平
- ・権田 恒夫

ファシリテーター・道下 英俊

# 子ども、若者らが狭山を「ふるさと」と思えるまちにするには？

## — 『狭山ふるさと会』の設立 —

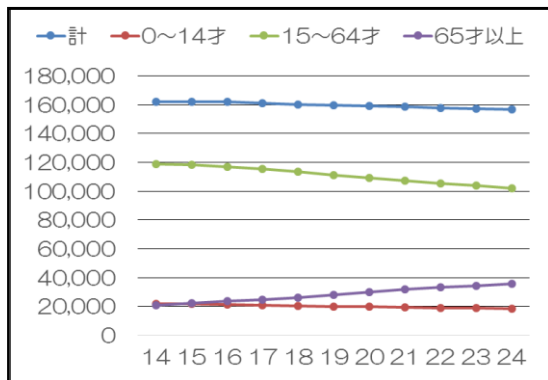
メンバー：(代表) 島田公江、川口彰久、清水康夫、本澤禮子、柿村幸恵、古澤徳子

ファシリテーター：竹内恵、江頭誠治

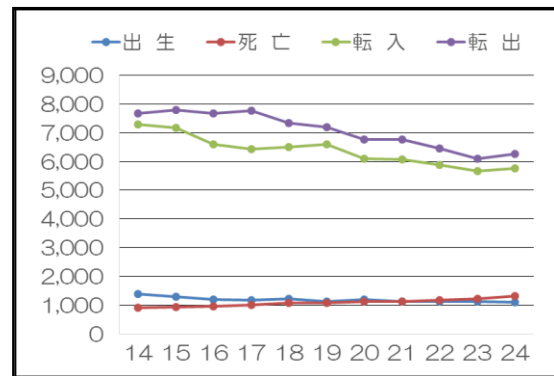
### 1 課題の背景

「子ども、若者らが『狭山をふるさと』と思えるまちにするには？」との課題を議論する中で、人口動態データ（狭山市HPより）を分析しました（1、2）。結果、65歳以上の高齢者は増加傾向である一方、64才以下の世代は総人口を上回る勢いで減少しています。要因は、出生数に大きな変化はないが、転入者の減少とそれを上回る転出者がいることでした。

人口減少は全国的な傾向ですが、この流れを食い止めるために我々ができることは何かと議論し、それは「ふるさとと思えるまちにすることではないか？」と考えるに至りました。



1 世代人口構成の変化



2 人口増減要因別の変化

### 2 調査

メンバーによるフリーディスカッションにおいて、親子の会話や世代間交流の不足、地域コミュニティの縮小傾向が明らかになるなかで、我々自身が狭山市の魅力を知らないことに気付きました。そこで、狭山市内に居住する若者の声や地域の情報を収集することにしました。

#### (1) 子どもや若者たちの声

子どもや若者達の狭山への思いを聞いてみたいと考えて調べると、市制60周年記念事業の「子ども議会」や32回を迎えた青少年健全育成大会「少年の主張」、「市長と中学生との対談」、などが開催されていましたが、具体的な希望や要望に接することはできませんでした。

一方、2013年12月と2014年2月に開催された協働フォーラムのテーマ「若者を増やす！～若者が住みたくなる『狭山』とは～」は、我々の目指す方向と同じでしたが、高校生からシニアまでが集い議論した結論は、抽象的なキーワードでした（狭山市HPより）。

#### (2) 文化財や伝統行事

平成25年度市政概要（狭山市議会事務局）に

#### さやま協働フォーラムのまとめ

～若者ファーストのまち「さやま」～

- 互援 ごえん（縁）のまち
- 若者1人をシニア3人がサポートするまち
- 子育てしやすいシェアタウン



よると、狭山市には埼玉県指定文化財が8点（さはりの壺、篠井家文書、入曽の獅子舞、梅宮神社甘酒祭り、七曲井（3）、堀兼之井、広瀬神社の大ケヤキ、笹井産出アケボノソウ骨格化石）や市指定文化財が47点ありました。市指定無形民俗文化財8点は（八幡神社獅子舞、広瀬囃子、入曽囃子、広瀬浅間神社祭り、お諏訪さまのなすとっかえ、西方囃子、柏原祇園囃子、上赤坂獅子舞）で、地域住民により継承されています。

そのほかにも地域に根差した祭りがあり、狭山入間川七夕まつり（4）は江戸時代中期から、奥富かかし祭りは27年前から開催されています。地区連合会で実施する体育祭やソフトボール大会、文化祭は毎年の行事であり、公民館や児童館などの活動は数えきれません。



3 七曲井



4 入間川七夕まつり

### （3）狭山ふるさと情報

狭山市には123の単位自治会が8つの地区連合自治会を構成し、それぞれがまちづくり委員会などを組織しています。5つの地区では、地域を紹介するマップや冊子を発行しています（5）。しかし、その地域の魅力を知らない人達も多く、広報活動の必要性を感じました。



入間川地区



入曽地区



水富地区



堀兼地区



奥富地区

### 5 各地区の紹介パンフレット

### （4）塩野谷延夫氏との意見交換

奥富地区に居住する塩野谷氏は、かかし祭りを立ち上げた方であり、現在入間地区子供会育成会連絡協議会会長など子ども達の健全な成長に尽力されています。そんな塩野谷氏から、活動における苦労話をお聞きするとともに、地域活動におけるポイントについて、ご教示を受けました。







るのではないかと考えました。

但し、本事業を進めるうえで、活動を推進する主催者の協力を得らかと心配しましたが、塩野谷氏からも賛意を得ることができ、狭山ふるさと会発足後に計画的に進めることとしました。

## (2) 狭山ふるさとO×クイズ

狭山市内の小学校では、社会科副読本「さやま」で狭山市や社会の仕組みについて勉強しています。したがって、これを題材にしたO×クイズを実施すれば、子ども達に競争心と知識欲を喚起することができるのではないかと考えました。また、回答者をグループ単位とすれば友達作りのきっかけになり、狭山ふるさと会の狙いに合致することになります。さらに、狭山入間川七夕まつりの会場で、衆目のなかでクイズを競う状況を設定することができれば、今どきの子供達のチャレンジ精神と満足度は一層高まるのではないのでしょうか。

教育委員会の前原課長と大寺課長からは、設問作成も子供達に依頼すると言う、まさに目からうろこの提案を受けました。子ども達の励みになるのであれば、異存はありません。

但し、本事業を進めるうえで、参加することの魅力情報を発信し、子ども達に興味を持ってもらえるかに心配が残ります。しかし、やらないことにはわかりません。平成27年夏に「第1回狭山ふるさとO×クイズ」を実施する方向で、具体的な実施要領の準備を開始し、関係機関にご協力をお願いすることになりました。

## (3) 狭山ふるさとガイドブック

狭山ふるさとガイドブックは、『狭山ふるさと検定』の想定問題集を兼ねた出版物を想定しています。地域の魅力は、各地区のまちづくり実行委員会などにより冊子が発行されています。また、狭山市内には埋もれている地域資源や歴史的資源も多数存在しています。

他方、さやま市民大学で歴史や日常文化の伝承、あるいはジャーナル学科で勉強している方々が多数おられるので、皆さんの協力を得ることができれば、ガイドブックの編集は可能と考えています。さらに一歩踏み込んで、市民大学に「ガイドブック編集講座」を開設できれば、ふるさと狭山の魅力を体系化できるのではないのでしょうか。いずれにしても、有識者に働きかけて組織を立ち上げて、項目を拾い出し編集することになるので、時間を要すると考えています。

## (4) 狭山ふるさと検定

隣接する川越市や石川県金沢市の検定を参考にしました(7)。両市は観光都市ということで、観光協会が主体となって実施しています。小江戸川越検定は3段階ありますが、前回は1、2級の試験が実施され、参加者193名(合格者173名)でした。平成27年の試験は1級検定(2級合格者のみ)が行われる予定です。一方、金沢市では初・中・上級が毎年実施され、受験者数2959名(合格者418名)と関心は高いものがあります。なお、金沢市では教育委員会が小学生や中学生を対象にジュニア検定を実施して、満点を得点した受験生には「ジュニアかなざわ博士」の称号を授与しています。いずれにしても県市町村が実施するご当地検定は、「わがまちの魅力を知る」機会を提供し、達成感と競争心を掻き立て、郷土愛を醸成しており、「人によるまちづくり」としての取り組みとなっています。

最近は低調と言われているご当地検定ではありますが、「狭山ふるさと」をキーワードとして狭山の魅力を満載した『狭山ふるさとガイドブック』を出版し、そして狭山の魅力を知る動機づけとして「狭山ふるさと検定」を実施し、成績優秀者には「狭山ふるさと博士」、満点合格者には「狭山ふるさと親善大使」などの称号を授与して、狭山市の広報活動を担ってもらえることができれば、子どもや若者達、シニア層の励みになるのではないのでしょうか。



小江戸川越のガイドブック



小江戸川越認定問題集



金沢検定の参考書

## 7 ご当地検定の例

### 4 狭山ふるさと情報交換会

子どもや若者、シニアのなかには、得意分野や得意技術を有している方、学びたい方が多数いると推測されます。そこで、「メダカの学校方式」で講師を務めて、ふるさと狭山で埋もれている情報を交換する場を設営することを提案しました。但し、親子を対象とした交換会に、既存の企画と異なる新たな魅力を加えたいと考えており、そのアイデアを検討しています。

#### (6) 2020 東京オリンピック支援

2020 年に開催される東京オリンピックでは、ボランティア 10 万人が必要ではないかと言われています。また、海外選手の合宿地、「ホストシティタウン構想」、「空き家のホームステイ活用」など、新聞紙上では各種アイデアで賑わっています。海外からの来訪者を含めて、多くの方々にふるさと狭山を売り込む好機ではないのでしょうか。所沢市では市職員の有志が研究を始めています。狭山市でもできることがあるはずです。情報の収集と発信を始めませんか。

### 5 最後に

短期間でまとめたので、情報の収集と分析に不確かな点があるのではないかと危惧しています。皆様方のご意見をお聞かせ頂けたら幸いです。

また、狭山ふるさと会の趣旨に賛同頂ける方、一緒に活動しませんか。ご連絡をお待ちします。

(連絡先：sayamafurusatokai@car.ocn.ne.jp)



8 メンバーとファシリテーター

# 狭山ふるさと会の提案事業

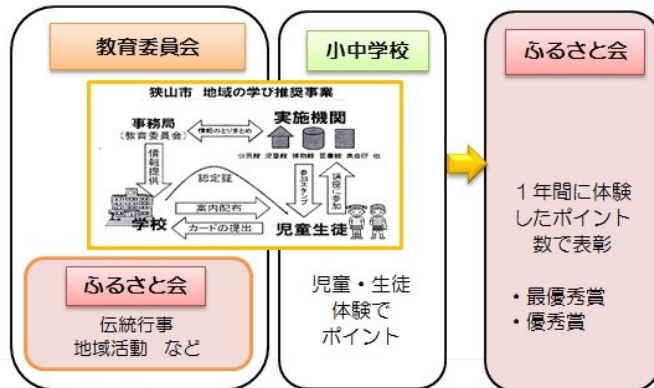
## 提案 1 狭山ふるさと体験ラリー

地域密着型イベントを紹介し、積極的な体験を誘発する企画です。友達づくりのきっかけづくりとなり、参加することで達成感を味わって頂くことを狙っています。

対象は小学生と中学生です。

### (特典)

狭山ふるさと会の特別会員として活動して頂きます。

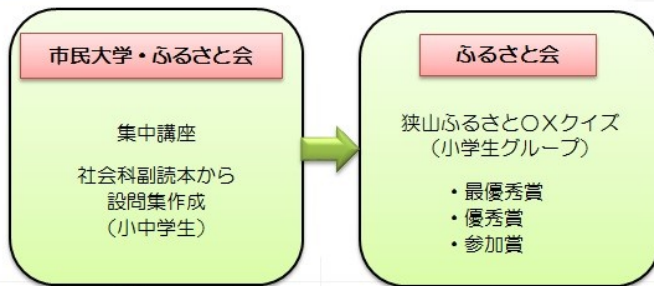


## 提案 2 狭山ふるさとOXクイズ

狭山を知ることと友達づくりを支援する企画です。問題の設定者と回答者には、小学生のグループを募集します。

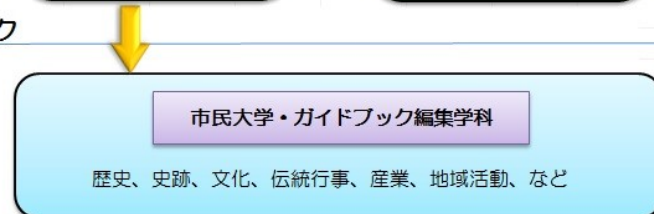
### (特典)

狭山ふるさと会の特別会員として活動して頂きます。



## 提案 3 狭山ふるさとガイドブック

狭山市の各地域の魅力をまとめてガイドブックを編集し出版します。将来的には、狭山ふるさと検定の出題範囲とします。

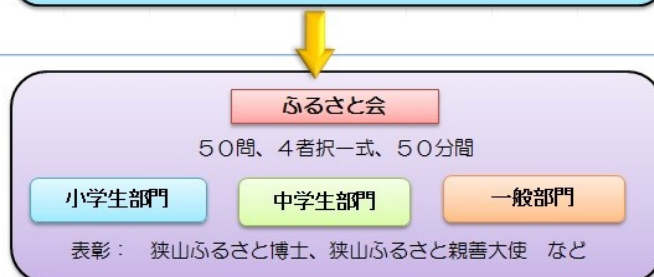


## 提案 4 狭山ふるさと検定

魅力ある狭山に関する知識を競いあうことで、知識欲、競争心、達成感を掻き立てる企画です。

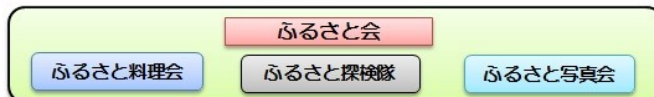
### (特典)

狭山ふるさと会の特別会員として活動して頂きます。



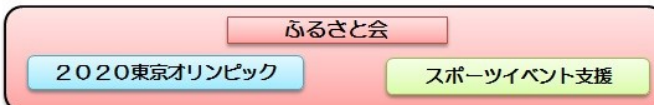
## 提案 5 狭山ふるさと情報交換会

狭山の魅力について情報交換する場を提供する企画です。



## 提案 6 2020東京オリンピック支援

ボランティア活動等の情報収集と発信を行う企画です。



付1 狭山ふるさと会の事業(案)



# 「困りごとセンター」の構想

## 1 検討のきっかけとなる疑問



互いが互いを助け合う気持ちが多くの人の中にある。行政も子育てに関して、「妊娠から子育て窓口一本化」と称し、サービスの提供を打ち出した。市民の側でも NPO 活動が盛んである。多くの方々が様々な課題に取り組んでいる。

では、一人の市民の立場に立った時、行政や NPO 等、各種サービスをどのように利用したらよいか、それぞれの組織の内容をどのように知り、自分の抱える問題に合わせて利用したらよいか。困りごとをどこに持って行ったらよいか。行政、NPO 等への、アクセスの仕方が分からないのが現状ではないのか。気軽に各組織を利用することができないのか、これが「困りごと相談センター」の課題に取り組んだきっかけである。

## 2 「困りごと」とは？その多様性を考え、取り組みの方向性を考える。

### (1) 1 回目の議論

身近にある「困りごと」を互いに出し合い、その姿を知る議論をした。

- 身体の不自由な独居老人がゴミ当番をしている。
- 子育てや就業の問題を抱え一人で悩んでいる女性が沢山いる。
- 各種サービスにつなげてくれる人が必要。
- NPO の場所が分かる NPO マップのようなものが必要。
- 民生委員は 700 人に 1 人、自治会長、地域包括センター等があるが、福祉は自分が申告しないかぎり何もしてくれない。適切な相談の窓口はどこなのか、分からない高齢者はたくさんいる。

→議論から我々の課題を 2 点に。

- 具体的な課題解決の組織を作るのか。
- それともコーディネーター組織を作るのか。

### (2) 2 回目の議論

○全体方針の検討を進める際の取り組み項目を可能な限り考える。

- 訪問計画の作成。いくつかの NPO 等を訪問する。 (候補) お助け隊、烏山商店街、柏原ユニーアイネット。
- アンケートを実施する。(市内自治会や NPO) やインタビュー等(自治会担当者、NPO 等)
- 先ず市民大学先輩の常世田さんの「お助け隊」を訪問し、取り組み内容困りごとの実態を知ること。

### 3 「NPO法人コモンズ安心お助け隊」を訪問し、地域の「困りごと」への対応を学ぶ



人材育成やNPOの立ちあげ等、仲間を増やし、諸機関との連携を図り計画的、組織的な取組をして現在に至る。

#### (1) 設立の経緯

- 11年10月～12年3月 最初の半年間「地域支え合い活動担い手養成講座」を開講する。  
40名の受講生→10名がコミカフェ、20名が便利屋（ヘルパー、介護）として活動している
- 12年 5月NPOコモンズを立ち上げる勉強会や包括支援センターの勉強をした。

#### (2) 「お助け隊」の現在

- 60名在籍。→自分から応募した人40名（平均年齢 男性67歳、女性60歳）。
- 各人の収入は多い人で3～4万、少ない人で1万ぐらい。
- 依頼は月平均200件。65%は包括支援センターから、個人は3割ぐらい。
- 包括等が間に入ってくれた方がよい。なぜなら個人の場合認知の人もいて、受けるのが心配。
- 市役所からの依頼の場合。職員の力量や実務で解決できる部署がないので頼んでくる場合が多い。

#### (3) Q&A

Q1・多い困りごとは？また、リピーターの割合は？年代は？

→送り迎えの依頼が多い。申込みは2、3日前までをお願いしている。ほとんどがリピーターになる。  
累計500人。60歳台～90歳台。

依頼料1時間1,100円（300円は事務所の家賃、光熱費等に）。

- 対応に苦慮する困りごとには以下のようなものがある。
- 老々介護や夫婦間の問題。
- ゴミの片付け等の依頼は市が許可する業者に頼んでいる。

#### Q2 組織体制に関する質問

- 1日の担当者数は→20人ぐらい。
- 人が多く必要な困りごとへの対応は？→10人は必要な時がある。特にゴミ出し。ゴミ屋敷の片付けの依頼が1月に1回ぐらいがある。
- スタッフへの交通費等の支払いは？→市内は交通費含めて1件あたり800円。市外へ行く場合は実費を払う。
- 人材育成は？→もう一度市民大学等で講座を開きたい。月2回、研究会を中核メンバー数名で行っている。議題は運営、作戦会議、クレーム対応等。清掃の研修も考えている



## 4 「笑顔せたがや」訪問



(相談員) 山崎富一氏 (エルモール烏山副理事長) 田中省一氏  
私達のグループの一人の実家が烏山にあり、相談事業を行う場所、年数とも学ぶことがあると考え訪問する。

相談事業を始めてから10年近く経ち、スタッフも自然体で、また、「笑顔せたがや」がすっかり地域のものとなっている。商店街との連携、殊に「スクラム烏山」という、清掃活動や仲間作りを含めた緩い集いを大切にして、コミュニティづくりにも取り組んでいる。

一方で継続して相談員をされている方の力量に大きく負っている現状をみて、人材育成が課題ではないかと感じる。

### (1) 概要説明

- ・設立して9年、事務所は地の利の良い所を商工会議所から借りた。
- ・相談事 老人ホーム関係、遺産管理等。解決の提案、情報提供はするが斡旋はしない。
- ・相談員 6人でローテーション、1日ゼロ件の日もある。商店街の案内もある。苦情もある。

### (2) Q&Aより

Q1 6人体制の内容は？

- ・最初は2人で始めた。ボランティアセンター出身とケアマネや特養での経験者。
- ・自然に人が集まり、2008年ぐらいからは6人になった。
- ・相談員の資質としては、話を聞いてくれる人、相談者に寄り添って対応してくれる人。
- ・3人は月に1回、土曜日のみ担当している。中には企業の社員研修を担当していた人もいる。
- ・相談は聞くことが中心。

(例) 有料老人ホームに入れるのに、奥さんが認知症で刃物を振るうがどうしたらよいか。

→ その場では結論を出さず一度受け止めて、持って帰ってもらう。

基本は話を聞き、情報を提供する。

Q2 人材育成は？ → 世田谷市民大学や生涯大学で学習する。

Q3 現在の課題 → もっと相談があってもよい。

Q4 商店街「エルモール烏山」との関係は → ・町の清掃→「スクラム烏山」

毎月第1日曜日 駅周辺のクリーン作戦を行う。フラワーポットの花の植え替えはボランティア担当となり、経費は1/3になった。楽書きが減り「コミュニティ」が生まれた。

Q6 包括支援センターとの連携は？

→ 母体はNPO法人。役所が持っているノウハウ、情報がもっと欲しい。

Q7 活動しているの達成感は

→ 自分の居場所になっている。やれる範囲でやっているから続いている。

## 5 2つの訪問から得たこと

- 「お助け隊」訪問から次のことを学ぶ。
    - ・「お助け隊」立ちあげまでの組織的な取組の素晴らしさ。
    - ・行政や包括支援センター等、他の組織との連携が大切であることを学ぶ。
  - 「笑顔せたがや」訪問から
    - ・商店街と連携した、コミュニティ活動と一体になっている素晴らしさ。
    - ・少数に限られた、有能な人材に負っているのは事業の継続性からはどうなのかの疑問。
- 以上のことから
- 「相談センター」の位置づけは？ どのような役割をするものとするのか？

## 6 私達の仮説、次への取組みを考える議論

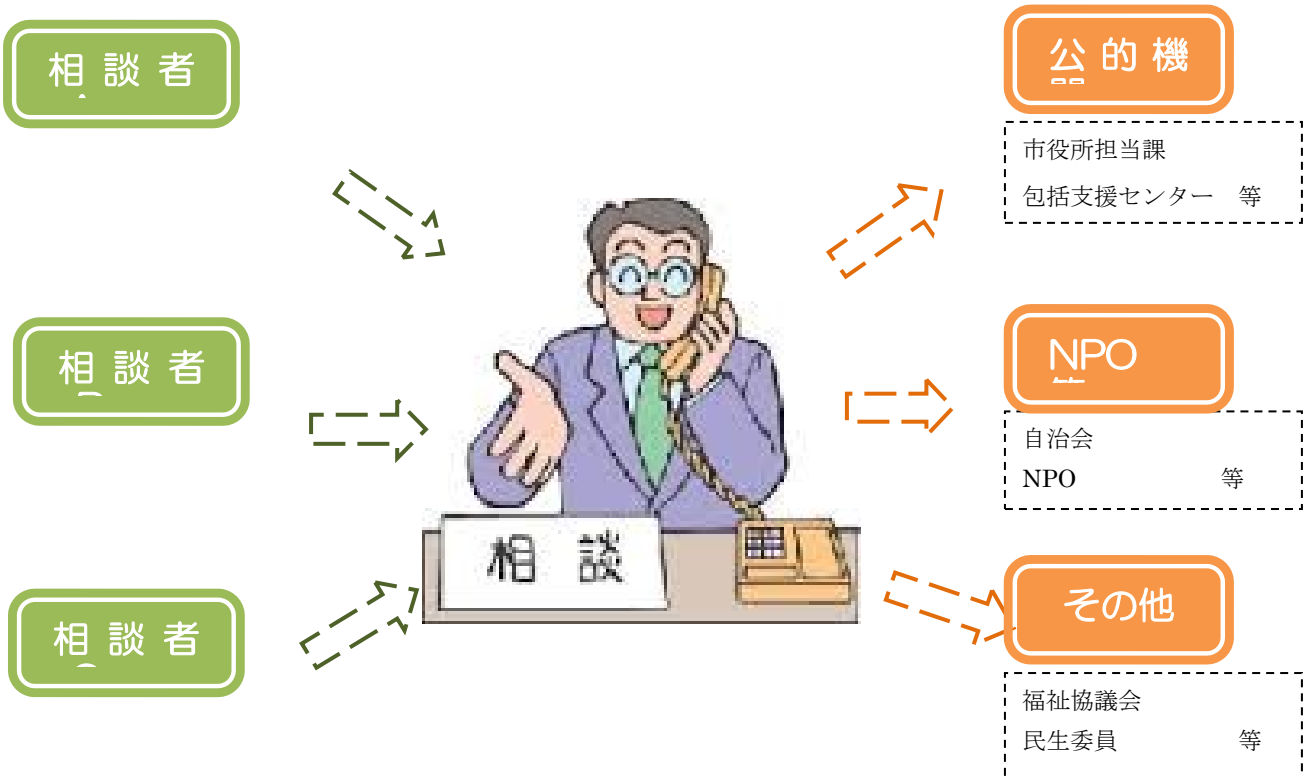
- ・団体間の連携が大切である。→ 相談に来た人をNPO等とつなげる。
- ・問題解決をどこまでやる？→ 求めていることに応えればよい。現在は縦割り。
- ・父子家庭等への対応がなされていない。→ 横の連携が必要。
- ・一つの切り口では問題解決ができない。→ コーディネーター、つなぎ役が必要。
- ・気軽に立ち寄ってつなげてあげる組織が望まれる。

↓↓

上記の意見交換から、下記の位置づけ、性格づけの組織を検討することとした。

(仮説) ◎つなげる組①市民とNPO等各団体

②組織同士のつながりをつける組織



## 7 NPOへのアンケートの概要と結果

さらに、この仮説を深めるために、市内47のNPOを切り口として選び、困りごとに関するアンケート調査を依頼し、判断資料を増やした。(依頼団体17, 回答11)

ポイントは、各NPO利用者はどのように相談先としてのNPOを選び、知ったか。また、各NPOは当該組織で解決出来ない課題があった時、他組織とどのように連携しているのかという点である。

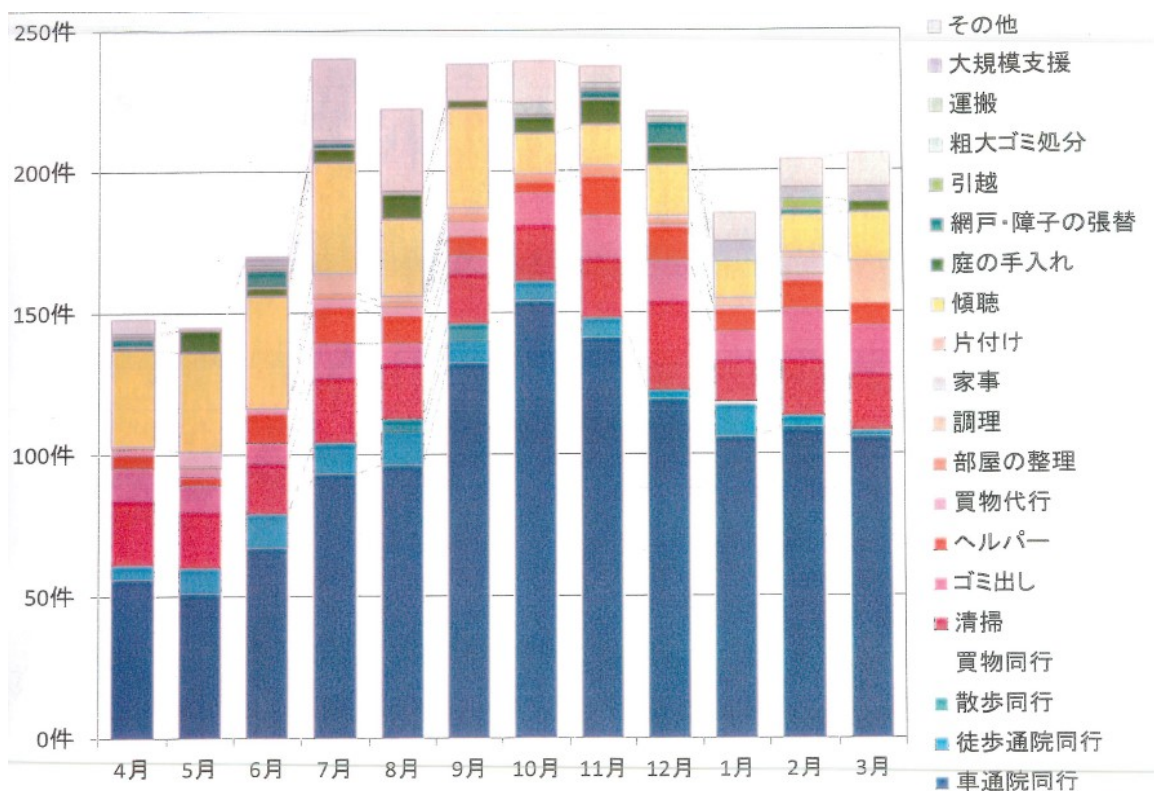
回答数が少ないので推測となるが、結果は私達が予想していたよりも各NPOは孤軍奮闘している。NPOを立ち上げる際の目的が十分に浸透していないことが分かる。

### (1) NPOの活動関係

- 活動対象の市民は男性が多く、年齢層は各年代にわたる。
- 利用者がNPOを知るのは、口コミやNPOのパンフが多い。
- 団体の宣伝活動は広報誌、やまルシェ」や 各団体のHへの掲載が多い。
- 市民向け講座を年50回もしている団体がある一方で、大半がしていない。
- 活動を多くの人に知らせる際の課題は圧倒的に人的パワー不足である。

### (2) 他団体との連携

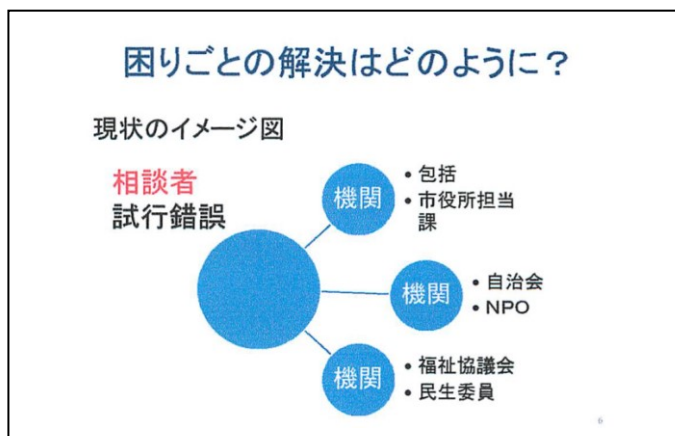
- 「他の団体との連携は取っている」との回答者は全体の5割であった。
- 他団体との連携方法は、「定期的と必要に応じて」で半分の団体がとっている。
- 「特に連携を取っていない」団体の理由は「忙しい、他団体の活動が分からない」が多い。
- 行政との連携は、「行政からの文書を読む」が5割、「必要に応じて担当課と連絡を取り、また行政からの連絡があれば連携」する団体が大半である。



## 8 私達の構想

訪問、アンケート結果から、「困りごと相談センター」を次のように構想した。

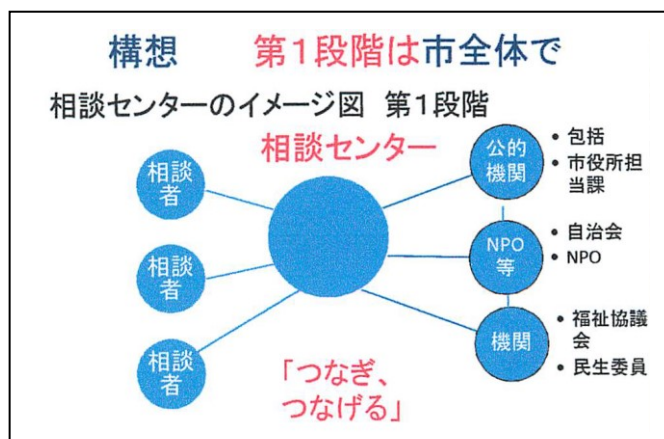
(1)現状はどのように？（私達の現状理解）



左記が私たちの現状である。

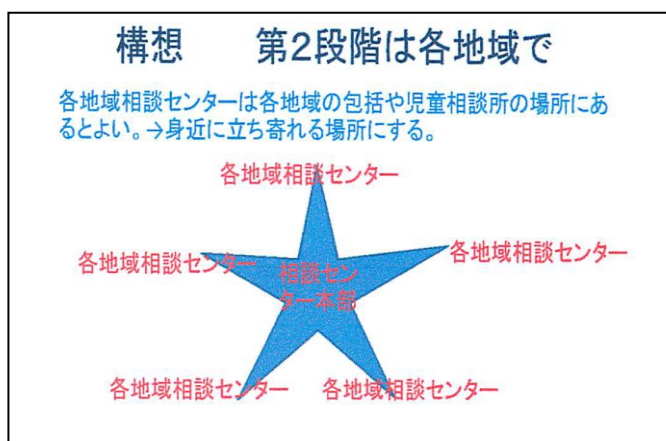
相談者は自分の課題解決に向けて、どの組織にアプローチしたらよいか、試行錯誤をしてみたりしている。またある部門が担当外であれば次の試行錯誤をせざるを得ない。

(2) 私たちの構想



- 市全体で「相談センター」を作る。
- 相談者は困った時に、先ず「相談センター」に連絡。
- 「相談センター」では困りごとを聞き、内容に応じて複数の機関を紹介する。必要に応じ各機関へ連絡する。
- 「相談センター」は各機関同士の連携事業を提案する。

第2段階として



- 各地域に相談センターを作り、気軽に寄って相談できる場所とする。
- 各地域相談センターのまとめを本部がする。



## 『まちじゅう健幸サロン』

筋力の衰えを防ぎ 今日の元気を明日につなごう!!  
元気なまち狭山

まちづくりの課題として、第 2 グループ 6 名のメンバーはこれから訪れる長寿社会を元気に過ごしてもらおうと 狭山のまちにふさわしい『まちじゅう健幸サロン』の構想図に挑戦しました。



### 『レインボークラブ』

メンバーの紹介 右から 横田たかこ  
堂園治枝、富永恵美子、大黒美耶、  
中山美喜子（FT） 高橋洋子  
木下保子(背景ポスター大黒美耶 作成)



『まちじゅう健幸サロン』の一番の目標と抱負は、狭山市の健康寿命を延伸させたいことです。これからの長寿社会で膨れていけよう医療費削減につなげていけると信じ挑戦していくことです。健康寿命とは 人が一生のうちで健康で支障なく日常生活を送れる期間をいいます。65 歳を基準に要介護 2 以上になる前までの年齢です。これは埼玉県の見解です。狭山市 2014 年の健康寿命は男性 82 歳女性 85 歳です。この年齢を 2 歳でも 3 歳でも 5 歳でも伸ばしていきたいのです。その目的に向かってサロン名称『レインボークラブ』としてスタートしました。

ここで『まちじゅう健幸サロン』構想 誕生までの夏休みの活動を報告いたします。

7/31 ・市役所 長寿健康部訪問 金子次長に話を聞く  
(開催場所について相談…)

8/20 ・構想原案ミーティング 市役所にて  
・構想原案第 2 回ミーティング市民交流  
センターにて

8/26 ・保健センター訪問  
保健事業について 藤村氏に話を聞く  
健康推進課 石井氏に話を聞く (出張サロンの提案あり)

8/27 ・市役所 長寿健康部訪問 田邊氏に話を聞く  
・NPO 法人 commons 石川芳章氏訪問 (コラボ協力依頼、立ち上げる心構えを聞く)  
・commons カフェ 大石氏 訪問



金子氏訪問



- 8/28 ・ 勤労福祉センター訪問 原氏に話を聞く  
 ・ コモンズカフェ“ピアノと歌を楽しむ会”参加（共助）
- 9/3 ・ 第3回ミーティング 発表に備えて  
 （元気プラザ インキュベーションルームにて）
- 9/19 ・ 社会福祉協議会訪問 井島氏に話を聞く  
 （平成27年度よりゴールド体操クラブ引き継ぎを打診される）
- 9/29 ・ 西武文理大学 加藤准教授を訪問、コーチング論について学ぶ
- 12/22 ・ 名称『レインボークラブ』誕生



井島氏訪問



**以**上の活動の中から『まちじゅう健幸サロン』の構想図が出来上がりました。  
 私たちの『まちじゅう健幸サロン』がやりとげなければならぬ道しるべは、クライアントの皆さまにホスピタリティの精神で接し 相手を思いやり笑顔の花さくサロンとすることです。おもてなしの心で実施し クライアントの皆さまの健やかな身体づくりの目標となるサロン 運動習慣のきっかけの場となるサロン 明るい楽しい仲間づくりの場となるサロン とすることです。実施させていただく私たちもクライアントの皆さまもみんな揃って すこやかで幸せな人生をつちかいていくために努力することです。  
 そのためには特色あるプロデュースで魅力あるサロンとします。



- その1 出前形式のサロンです。ご要望に応じて出向いて活動します。  
 地域の企業、商店、団体、ロータリークラブなどのお客様の福利厚生や健康推進行事の仲間入りをさせていただくこと。  
 行政や民間の高齢者福祉施設のデイサービス、入所型の施設のデイプログラムのお手伝いなどを考えています。
- その2 豊富なプログラムでマンネリ化させません。  
 オリジナル健康体操も只今構成に向け知恵を絞っています。まもなく完成させたいと意気込んでいます。
- その3 地域に貢献できるサロンでなければなりません。これは到達目標で強い信念です。

**継**続するための基盤づくりですが、私たちの『健幸サロン』を継続するために必要な資金はありません。あるのは6名の強い意志と信頼しあう絆だけです。ゼロからのスタートという勇氣ある決断をし、秘訣、知恵を出し合いました。純粋な気持ちで一生懸命取り組み信頼されるサロンの為に経験を一つ一つ一回一回積み重ねていきます。  
 クライアントの皆さまが楽しかったありがとう 気持ちが明るくなったよ いろんな人と出会えるから楽しみが増えたよ などを実感してもらえプロデュースで実施していきます。  
 そして地域貢献を築いていくことなのです。



行政との協働をめざし補助金申請に向けて価値ある実績を積み重ねていくことだと一致団結して取り組みます。

早ければ平成 27 年度市民提案型事業に名乗りをあげられるよう前進あるのみです。

私たち 6 名の特長と技術を最大限に活用し情熱と技術のハーモニーで高い評価を獲得できるよう知恵と工夫をかさねていきます。

その知恵と工夫でこれからの時間を心で勝負していきます。

その心とは、明るく楽しく元気よくを合言葉としクライアントの皆さまがほんわか温かくなるサロンとします。

やってあげるのではなく支援させていただく喜びを私たちの笑顔で実証し相手の心に響くサロンとします。

私たちが自信と誇りと感謝で輝くことでクライアントの皆さまも輝いて下さると信じています。

支援する側が無理せず無理なくほどほどの力を出し合い支えあいながら毎回サロンの目的を定めそれに沿ったプランで実施していき 心地よいサロンとします。

『まちじゅう健幸サロン』のプログラムです。クライアントの要望に添った内容をその要望に一番ふさわしい取り組み方をさぐりながら実施していきます。

**ストレッチ体操 リズム体操 ラジオ体操 スクエアステップ**

**脳トレ体操・手遊びなど レクリエーションダンス**

**ピラティス ヨガ ウォーキング**

**企業見学会**

**講演会**

「健康」をテーマ

「介護予防」をテーマ

「文化・芸術」をテーマ

**積極的にPR活動をする**

**出前の依頼は随時受け入れる**



筋力を衰えさせないためのストレッチ体操

筋力をほどよく鍛えていく体操

脳の活性化と身体の動きを同時に鍛える運動などを採り入れ、いく通りもの組み合わせを探って実施します。実施時間は一時間半、楽しいくつろぎタイムを含めて約二時間です。



**私** たちはこのゴールに着地し失敗を恐れずチャレンジしていきます。

失敗しても逃げません。失敗したらスイッチを切り替え前進します。

私たちは教師ではなく目標に向かう人の伴走者に徹していきます。

# ゴール 失敗を恐れずチャレンジしよう!!

加藤准教授のご指導

コーチングとは指導者が人を育てること  
指導者はあくまでも伴走者であること

\*実践の心構え コーチングの流れをリーダーとして実践していく

- 1 **G** Goal ゴール 到達 → 健康寿命延伸・地域貢献
- 2 **R** Reality リアリティ 実践 → 豊かなプログラムを発進し心と技のキャッチボールを実施していく
- 3 **O** Option オプション 選択肢 → クライアントの要望に応えられる複数のプログラムを用意し柔軟に対応する
- 4 **W** Will ウィル 意思決定 → 参加者に決めてもらう



伴走者としての心構え それはGROW（グロウ）です。  
努力と経験の積み重ねがよい結果へと結びついていきます。

- ① **G** ゴール 到達です。 私たちのゴールは健康寿命と地域貢献です。  
それは元気な高齢者のために運動習慣や、仲間づくりの受け皿になること、サポーターの一員になること、さらに高齢者の意欲や能力を発揮させる場となることです。
- ② **R** リアリティ 実践です。 豊かなプログラムで心と技のキャッチボールを実践します。  
そのためにプログラムを強要するのではなく、考えを投げかけていきます。  
そして、反応をキャッチして求めに応じていきます。
- ③ **O** オプション 選択肢です。複数のプログラムを用意します。定番オリジナル体操も組み入れます。クライアントに選択してもらうプログラムを提示し要望に応じていくことです。
- ④ **W** ウィル 決断です。意思決定の場面です。  
継続していただく意思を表明してもらえるサロンの実施です。その決断はクライアントの皆さまなのです。

以上、私たち『まちじゅう健幸サロン』は10月10日（金）学習成果発表を終えました。  
平成27年4月には『レインボークラブ体操』を初めの一步として踏み出します。





8/20 交流センターにて打ち合わせ



スクエアステップ



8/28 勤労福祉センター訪問



楽しいサロン風景



レクリエーションダンス



ピラティスヨガ



# まちづくり担い手養成学科講座報告(全 20 回)

第1回:4月12日(土) 13:00~16:00

- ①入学式
- ②学科ガイダンス~B棟2階大会議室
  - ☆「まちづくり担い手養成学科」の概要
  - ☆学科の講座運営について
  - ☆学科スタッフの紹介
  - ☆受講生全21名の名簿
  - ☆学科全20回のカリキュラム説明



第2回:4月18日(金) 13:30~16:00

\*講座内容:まちづくり学部 共通科目

1. 「まちづくり」とは何か?: さやま市民大学学長 小山周三
  - \*「まち」とは何か/「つくる」の意味を考える
  - \*「まちづくり」の共通理解
  - \*「まちづくり」の目的
  - \*「全体としてのまちづくり」を理解する。等を説明
2. 「協働のまちづくり」: 市民部協働自治推進課 北田課長
  - \*第三次狭山市総合振興計画後期計画について
  - \*狭山市行政組織について
  - \*「さやまの台所事情」
  - \*「協働のまちづくり」



第3回:4月25日(金) 13:30~16:00

- ①狭山の魅力を考える~狭山の宝・地域資源探し: 西武文理大学 安田亘宏教授
  - \*地域資源とは?
  - \*観光資源とは?
  - \*観光資源の要件: 観光地づくり
  - \*地域の宝探し
    - \*狭山の地域の宝~お茶以外に5つの宝を探そう
- ②「入間川から社会変革」~入間川再発見プロジェクト:  
狭山市をおもしろくする会 主宰福田正
  - \*狂言「入間川」研究
  - \*入間川に鯉のぼりを渡すプロジェクト



第4回:5月2日(金) 13:30~16:00

- 「ソーシャル・コミュニティ・デザインとしてのまちづくり」  
~まちづくりは、幸せの社会(ソーシャル)デザイン  
~センス・オブ・ハピネスの構想: 多摩大学大学院教授望月照彦氏
  - \*第一章: いまなぜ社会デザインを考えるのか?
  - \*第二章: 社会とは何か、デザインとは何か?



- \*第三章：福島県須賀川市の地域暗黙知・隠された知 恵資源
- \*第四章：「半農半X」という<個の生きる思想>・・・塩見さんの生き方
- \*第五章：盲目の老女救助から始まった佐藤擁君の社会デザイン・・・コンバージョン資源
- \*第六章：小さな社会孵化（インキュベーション）装置の発見：孵化装置資源
- \*第七章：センス・オブ・ヒピネスの構想・・・幸せの社会デザイン

### 第5回:5月9日(金) 13:30~16:00

「コミュニティをマネジメントする」:

NPO 法人さやまグリーンネット代表理事 毛塚宏 氏

第一部：はじめに・・・新狭山ハイツのプロフィール

：コミュニティづくりの始動～発展

：新たな課題への挑戦

：ハイツのコミュニティ・マネジメント

：コミュニティ活性化に求められること



### 第6回:5月16日(金) 13:30~16:00

①狭山元気大学CB起業コース修了から起業・実践活動へ」

～NPO 法人コモンズ理事長 常世田 幸久氏

平成22年度に試行コースとして開講した狭山元気大学の「コミュニティ・ビジネス起業コース」を受講した、常世田幸久氏が、その後参加した NPO 法人コモンズにおいて昨年度から新たに立ち上げた「さやま安心お助け隊」に事業を中心にプレゼンを行った。

②オアシス作業所設立からパン工房の設立まで」～オアシス作業所を支える会について

NPO 法人オアシス作業所を支える会代表 亀田仁氏

### 第7回:5月23日(金) 13:30~16:00

講座内容：「ボランティア活動とまちづくり」

\*第一部

① ボランティアとは：言葉の定義

② ランティア活動の事例

③ 山市内でのボランティア活動の機会～どうすればできるか？

～「ボランティアの止まり木」理事：山田 恵一氏

\*第二部 ～止まり木の活動から学んだもの～「人と人とのつながりの大切さ」:

「ボランティアの止まり木」 中山美喜子氏

### 第8回:5月30日(金) 13:30~16:00

\*講座内容：「まちづくりの先進事例紹介」

第一部：「日本一賑わいのある商店街～ハッピーロード大山商店街の現状紹介」

(一社) 街活さやま 代表理事 江頭 誠治氏

第二部：「長野県小布施町のまちづくりに学ぶ」

～さやま市民大学学長 小山 周三氏

### 第9回:6月6日(金) 8:45~17:00

講座内容：「まちづくり先進事例現地視察」

～東大柏の葉キャンパス高齢社会総合研究機構

①「長寿社会のまちづくり」

～柏市・東京大学・URの協働の取り組みについて  
東京大学柏の葉キャンパス 高齢社会総合研究機構  
学術支援専門委員 木村清一氏

② 柏市豊四季団地「柏市地域医療連携センターの役割」

～ 柏市福祉政策課 小林 唯浩氏

③豊四季団地内高齢者特別養護施設他見学



**第10回:6月13日(金) 13:30～16:00**

\*講座内容:「食」と「農」を活かしたまちづくり (1)

①狭山の農業事情と直売所構想について

～JAいるま野農業協同組合 狭山統括支店:高橋 豊氏

①「農」を活かしたまちづくり・ひとづくり」

②～都市農業の魅力を活かそう～

:H25年度さやま元気大学「まちづくり担い手養成コース修了生 新寄照幸氏

**第11回:6月20日(金) 13:30～16:00**

\*講座内容:「食」と「農」を活かしたまちづくり (2)

①6次産業化による狭山市のまちづくり

\*6次産業化とは?

\*なぜ6次産業化を?

\*6次産業化の具体例

\*食と農のまち狭山市への期待

～狭山元気大学平成24年度「地域・まちづくり担い手養成講座」修了生小口英吉氏

②狭山元気ファーム:設立後1年間の歩み

～狭山元気大学 平成24年度修了生 金井清志氏

**第12回:6月27日(金) 13:30～16:00**

\*講座内容:「商店街の活性化の成功事例紹介」

～秩父市みやのかわ商店街の例～秩父市みやのかわ商店街振興会

前理事長 島田 憲一氏

① 毎回新しいイベントを企画する～ナイトバザールがまちづくりの起爆剤に・

② ほっとすぽっと「秩父館」の開設:商店街のお休み処

③ ボランティアバンク「おたすけ隊」の創設

④出張商店街「楽楽屋」を実施:買い物難民へのサービス



**第13回:7月4日(金) 13:30～16:00**

\*講座内容:「世代間交流によるまちづくり」

第一部:「出来ることを、できる人が、出来るときに・・・」

:平成25年度さやま元気大学修了生 笠松 直美氏

\*盲学校、学校での音楽指導 \*障害児の音楽指導 \*言語療法の勉強

\*精神障害の勉強 \*みのり福祉会支援 \*ホームヘルパー2級取得～在宅訪問ヘルパー

\*カウンセリングの資格取得

第二部:「子供たちが元気になるまちづくり」

平成 26 年度さやま市民大学受講生 島田公江氏

- \* 世代間交流とは？
- \* 具体的にどんな活動があるの？
- \* 武蔵自治会、「Tsunagari-na」の活動
- \* 子ども大学さやま・いるま
- \* 世代間交流の利点

#### 第 14 回:7 月 11 日(金) 13:30~16:00

\* 講座内容：「市民活動に役立つ ICT とは？」

第一部：「ICT の基礎知識」：さやま市民大学平成 25 年度修了生 宮本 俊之氏

\* ICT とは・・・Information & Communication Technology＝

コンピューターやネットワークに関連する技術・産業・設備・サービスなどの総称

\* ICT で何が出来る？ \* まちづくりと情報発信

\* インターネット、メール、ホームページ、ブログ、SNS、等

\* 注意すべきこと：遠隔操作事件、フィッシング詐欺、情報流出、ウィルス感染

第二部：「市民活動に有効な ICT とは？～インターネットは便利だね」

一般社団法人 理事 南部 健一郎氏

\* インターネットで何をしようか・・・

\* 自分の活動の宣伝 ○自己紹介 ○仲間探し ○情報収集 ○共感した仲間同士のコミュニケーション

\* インターネットを上手に使う：ブログ、Facebook、ポータルサイト、

#### 第 15 回:7 月 18 日(金) 13:30~16:00

\* 講座内容：地域課題別グループ編成とグループ活動計画の立案

< 課題 4 つとグループ編成 >

\* グループ①童話のまちで商店街の再生 (c. f. 中央商店街では「童句」のまち)

◎権田恒夫、佐藤咲子、花形直平、鈴木房子、村井美砂子

\* グループ②まち中青空サロンの展開

◎木下保子、大黒美那、高橋洋子、堂園治枝、富永恵美子、横田たか子

\* グループ③困りごと何でも相談センターの開設

◎成瀬英二、梅澤桂子、奥富文雄、野澤光

\* グループ④子供、若者らが「ふるさと」と思えるまちにするには？

◎川口彰久、島田公江、清水康雄、本澤禮子、柿村幸恵、古澤徳子

以上の 4 グループで課題別ワークショップを 4 回実施し、10 月 10 日の

グループ発表会での成果発表を行う。(第 16 回、17 回、18 回、19 回の実施報告は省略)

#### 第 20 回:10 月 10 日(金) 13:30~16:00

\* 講座内容：課題別グループ別学習成果発表会

★グループ①「童句と童話のまち」で商店街の再生 (c. f. 中央商店街では「童話と童句」のまち)

\* 権田恒夫\*佐藤咲子\*花形直平\*鈴木房子\*村井美砂子 ○道下 英俊

★グループ②「まちじゅう健幸サロンの展開」

\* 木下保子\*大黒美那\*高橋洋子\*堂園治枝\*富永恵美子\*横田たか子 ○中山美喜子

★グループ③「困りごと何でも相談センターの開設」

\* 成瀬英二\*梅澤桂子\*奥富文雄\*野澤光 ○常世田幸久

★グループ④「子供、若者らが「ふるさと」と思えるまちにするには」

\* 島田公江\*川口彰久\*清水康雄\*本澤禮子\*柿村幸恵\*古澤徳子 ○江頭誠治、竹内恵



# まちづくり担い手養成学科 スタッフ編集後記

## ★学科リーダー：草野 喜実勝

●今年度の「まちづくり担い手」学科は23年度「まちづくりプロデューサー養成講座」以来3年目の担当となります。狭山元気大学開校前年「コミュニティ・ビジネス起業コース」（試行コース）で始まった“まちづくり”とは？という疑問、質問にたいする答えを自ら探す活動も、4年目となった今年度は特に充実した実り豊かな1年だったと思います。

●勿論、ご指導頂いた小山周三学長の市民大学に掛ける情熱と豊富な学識、経験に寄りかかりながらのノロノロ運転の3年間でした。今年度の講座企画段階での数知れない綿密な打ち合わせ、毎回の振り返りシートの作成、評価、そして課題の提出とグループ分け作業、その後のグループ発表、学園祭、学習成果の取り纏めの全ての課程においてご指導頂きました。

●“まちづくり担い手養成”というある意味上から目線の講座名に、若干の違和感を感じつつこの3年間でしたが、同時に“メダカの学校”の先生と生徒の入れ替わりを実践してきたことで、本当の意味が分かってきた3年間でもありました。

●今年度の受講生21名の一人ひとりの名前を覚えることから始まり、今では何年来の友人、仲間のように楽しく、時には激しく議論し合う“ひと固まり”になれたことが自分にとっての最大の成果だったと思います。受講生の皆さん、講座を支えてくれたスタッフの皆さん、そして何より小山周三先生、本当にありがとうございました。（出来るなら来年度の講座も引き続きよろしくお願い致します。）

## ★第4グループファシリテーター：江頭 誠治

●まちづくり学部「まちづくり養成学科」は、26年4月12日入学式終了後受講生21名が一堂に会し、受講生ガイダンスが行われ、トータルコーディネーター小山庄長、学科リーダー草野氏の主導でファシリテーター受講生の紹介が行われ、気分も新たに講座の運営が円滑に行われるよう、その責任の重さに緊張感を覚えた。

●ファシリテーターとしてこれからの講座を遂行していくに当たって重要なことは何か？を考えたときに受講生の顔と名前を記憶し次にその人の仕事、経験、生業を知ることでの後の講座での学習の進め方に大きな影響が出てくるのではないかと思い、講座回数が増えるごとにできるだけ多くの皆さんと会話をし、男性の場合は、やはり現役時代の職業人としての経験、専門性などを聞くにつれ、自分の経験と比し、つい会話に夢中になることも度々であった。

●女性の場合は家庭生活の中で親の介護や、子供の教育、家事などの多忙な毎日を消化しながら、なおかつ講座に参加し狭山市のまちづくりを担う役割を担うべく学ぶ姿に、感動を覚えさせられた。

●講座の座学は7月18日の第15回で終了し、夏休みに入る前に課題別グループ編成がおこなわれ4グループに分かれ、それぞれの課題をワークショップ形式で議論を深め、必要に応じて現地視察、課外学習も取り入れながら夏休み明けの9月には学習成果を取りまとめ、10月10日の発表に備えることとなった。

●私は第4グループのファシリテーターに指名され、子供、若者らが「ふるさと」と思えるまちにするには、をテーマに、島田公江さんをリーダーに6名が夏休みも返上し課題の研究に取り組んだ。

グループメンバー各自が積極的に課題の取材に飛び回り、成果が取りまとめられ個性ある研究発表につながり、さらにそれが発展して「ふるさと会」の結成に結びついたことは何にもまして私の喜びとなった。

●成功の要因となったのは人を信頼し、知ることから始まり、冒頭に感じた、会話をし、お互いをよく知ることから始まることの重要性を噛みしめながら私の感想文といたします。

## ★第2グループファシリテーター：中山 美喜子

●2012年元気大学まちづくり担い手養成コースで、まちづくりの担い手となるための知識やノウハウを小山学長にご指導いただき、お世話になったことから2014年にスタッフとして参加させていただくことになりました。入学式後のガイダンスで受講生21人の中には顔見知りが出て、少し緊張感が和らぎ溶け込むことが出来ました。

●テーマ学科別グループ（まちじゅう青空サロン）学習でファシリテーターを務めることになりました。運動の苦手な私として戸惑いと不安がありましたが、ストレッチ体操やレクリエーションダンス等知らなくても「手助けは出来るのでは」でした。木下保子リーダーの元、グループメンバー（5人）はヤル気と熱意で活発な意見を交わし、啓発しあっていました。グループ学習時はファシリテーターの役割として、均等に発言できる環境作りに気をつけていました。夏休みの実態調査では介護支援専門員として培った人脈でコンタクトを取り、どこでも懇切丁寧に対応していただき有意義な内容のお話を聞くことが出来ました事が良かったです。

●また、社会福祉協議会井島さまから平成27年度よりゴールド体操クラブ引き継ぎの打診があった事でグループに今後の活動の励みになりました。メンバーは狭山市の健康寿命の延伸を目標に「レインボークラブ体操」を発足し、平成27年4月からゴールド体操クラブを引き継ぐ準備をしています。この素晴らしいグループの活動に参加させていただき、感謝と御礼申し上げます。卒業後も引き続きグループのフォローをしていきたいと思えます。

●まちづくり担い手養成学科を終え、改めてファシリテーター能力とは何かを学び、グループ目標の達成と人間関係維持のために重要な機能を果たしていることを再確認できました。ファシリテーターとしての役割と責任を改めて強く自覚できたと同時に、もっと自分を磨いていく必要があると実感しました。

## ★第4グループファシリテーター：竹内 恵

●過去2年間、狭山元気大学で受講生として学びました。今期は、学長先生や先輩のご指導により、ファシリテーター（以下FTと略記）というお役を拝命し、お世話係を務めつつもに学ばせていただきました。受講生としての2期は地域活性化に使命感を持つ方々と交流し、市民の視点からの課題やニーズ動向などを聴き取って来ました。

●FTとして教室に待てる今期に於いては、FTの役割として、皆様の振り返りシートを拝見したりスタッフ会に出席することで受講される方々の課題や要望、また講座がどのように聴かれたかまで知ることが出来、得がたい学びをさせていただきました。

●その中で、強く感じたのは、受講生時代にも共通する課題ですが、現在の狭山市をもっと深く幅広く知る必要があるのではないかということです。自分の行動範囲での知見を以て狭山市を捉えるのではもったいない。知れば知るほど地域資源豊かなまちであり、ここに生まれ育った子どもたちには「狭山がふるさと」という意識を醸成し定住に結び付けたい。そのための具体策は？

●受講生の方々と折々お話ししていたところ、担当させていただいた第4グループの皆さんから、地域＝狭山市について市民に知らしめる働きを興すという提言があり、まさに我が意を得たりと感じました。

地域でゼロから活動を立ち上げるのは容易なことではありませんが、協働の担い手を養成する講座から実践活動が始まることは、設立趣旨に沿うことであり、今後の展開を期待いたします。

受講生諸氏の真摯な学びの姿勢に謝しつつ、FTとしての纏めと致します。

## ★第1グループファシリテーター：道下 英俊

”童句と童話と童絵で商店街の再生を“への想い

夏休み課題研究（童句と童話と童絵で商店街の再生を）の中で掲げられた、狭山市駅東口から、狭山市中央商店街（童句通り）を経て、堀兼・上赤坂公園に続く道を歩いてみた。

### ●狭山市駅東口～狭山台中央公園

駅前を右に折れて、南經由狭山台行きのバス通りに出る、通りには30年以上の歴史がある団子屋が今も健在に頑張っている。ガソリンスタンドの信号を左に折れると、通称“童句どおり”と呼ばれている中央商店街があり、道路の両側に“童句”を記した街路灯が100基ある。商店街にとっては宝物であり活用の仕方によっては街の活性化につながる大切な文化財である。

最初に飛び込んできた“動き出す、リズムさわやか、鼓笛隊”、の文字に身体も引きしめる。昔ながらの雑貨店や花屋を横目にスクランブル交差点を通り抜け“おたまじゃくし、群れて大きな、魚となる”の句を書き止め、最後に“じゃんけんが、石段登る、神の留守”を書き止め、この童句を活用し、人が動き、経済が動き、雇用が生まれることを願いつつ、商店街を後にして子供たちの野外体験、少年野球の活動が盛んな狭山台中央公園にでる。この公園は冬の寒椿に始まり、桜、さつき、あじさい、曼珠沙華と季節の花々を楽しむこともできる。

### ●狭山台中央公園～堀兼・上赤坂の森公園

昔、雑木林だった面影をそのまま残した狭山台中央公園から堀兼・上赤坂の森公園に続く道の途中にある不老川は、水もきれいになって、小魚が住みつき鴨や白鷺、時にはカワセミも訪問してくれる。又、歩道の道幅も広く、高齢者が安心して歩ける道路である。昨年の11月にオープンした野菜の直売場を覗き、遠くにそびえる富士山をカメラに収め、直売所の裏手にある赤坂の森公園に入る。散歩コースを一周し、途中の団子屋で買い求めた稲荷ずしをつまみ、このウォーキングコースを童句・童話・童絵で彩ることに想いを馳せ、夏休み課題研究で触れ合った方々の笑顔やいただいた言葉を想い浮かべているうちに、心も豊かになって、足取りも軽く公園を後に狭山台にかえる。・・・所要時間120分・・・

## ★第3グループファシリテーター：常世田 幸久

●21名の受講生の皆様と4月の入学式にお会いし、10月の講座終了までの半年間、ともに狭山市が抱える課題等を学び、さらにはその可決方法等を真摯に語り合うことができ大変有意義な時でした。

●私が担当させていただいた3グループの多くの方は地域活動をすでにされている方々でした。卓越した識見を持たれさらには経験豊富な皆さんで、グループ討論会では白熱した議論があり、まとめ役のリーダー等の方が大変ご苦労をされていました。

●訪問し活動状況を研修され実態の把握に努められました。私たちが運営する見守り事業の事態把握には大変厳しい質問を受け返答には大変苦労をしました。

最終課題の発表は、地道な調査活動に基づく内容であり大勢の皆様から賞賛を得られました。

元氣大学で学び現在地域活動をしている私も大変感銘を受けました。

グループの皆様が団結力を発揮し、今後の活動目標である地域の困りごとの解決活動に生かされますことを祈念します。

以上

# まちづくりの木



平成 26 年度まちづくり担い手養成学科

修了制作：まちづくり提案集「はじめよう！！まちづくり」

発行日：平成 27 年 2 月 28 日

編 集：さやま市民大学 26 年度まちづくり担い手養成学科修了生一同

連絡先：〒350-1304 狭山市狭山台 1-21 狭山元気プラザ 事務局

TEL：04-2968-6885 FAX：04-2959-2785

E-mail：[shimindaigaku@sayama-kyoudou.or.jp](mailto:shimindaigaku@sayama-kyoudou.or.jp)